



平成30年度  
東京都広報コンクール  
実施結果

平成31年3月19日



東京都

# 目次

- 平成30年度東京都広報コンクール実施状況 . . . . . p.3
- 平成30年度東京都広報コンクール審査委員名簿 . . . . . p.4
- 平成30年度東京都広報コンクール入選作品一覧 . . . . . p.5
- 広報紙部門
  - 広報紙部門 総評 . . . . . p.7
  - 広報紙部門 入選作品紹介 . . . . . p.10
- 写真部門（一枚写真部・組み写真部）
  - 写真部門 総評 . . . . . p.19
  - 一枚写真部 入選作品紹介 . . . . . p.21
  - 組み写真部 入選作品紹介 . . . . . p.30
- 映像部門
  - 映像部門 総評 . . . . . p.37
  - 映像部門 入選作品紹介 . . . . . p.39

# 平成30年度東京都広報コンクール実施状況

区市町村の広報力の向上と、都と区市町村との連携による広報活動の充実を図ることを目的に、平成30年度東京都広報コンクールを下記のとおり実施した。

## 1 応募状況

### (1) 応募作品数

部門	応募作品数（今年度）	応募作品数（昨年度）
広報紙部門	38	41
一枚写真部	24	25
組み写真部	19	17
映像部門	24	24
応募総数	105	107

### (2) 応募区市町村数

20区18市2町

## 2 審査会

平成31年1月21日、24日及び25日

東京都庁舎内会議室

## 3 審査委員

「平成30年度東京都広報コンクール審査委員名簿」のとおり

## 4 審査結果

「平成30年度東京都広報コンクール入選作品一覧」のとおり

なお、（公社）日本広報協会「全国広報コンクール応募要領」の応募基準に該当する各部門の上位の作品については、「平成31年全国広報コンクール」に東京都推薦作品として応募する。

## 5 表彰式

日時：平成31年3月19日（火曜日）14：30～

会場：都庁第二本庁舎1階 二庁ホール

※平成30年度「東京都広報セミナー」を同時開催

# 平成30年度東京都広報コンクール審査委員名簿

部門	氏名	現職等	専門分野
広報紙	大井 眞二	日本大学法学部新聞学科教授	マス・コミュニケーション論等
	長岡 光弘	グラフィックデザイナー	広報紙のレイアウト編集等
写真	大石 芳野	(社)日本写真家協会会員 フォト・ジャーナリスト	写真一般
	板橋 秀樹	東京都生活文化局 広報広聴部広報課課長代理 (写真担当)	行政広報写真等
映像	阿部 祐樹	(株)電通 第3CR プランニング局 部長 クリエイティブ・ディレクター	広告企画・制作
	高橋 幸作	(株)NHKエデュケーショナル 特集文化部統括プロデューサー	映像企画・制作

# 平成30年度東京都広報コンクール入選作品一覧

部門	賞	区市町村名	作品名	全国推薦	
1 広報紙 (38)	最優秀	足立区	「あだち広報」2月10日号	○	
	一席	豊島区	「広報としま特集版」10月1日号	○	
	二席	杉並区	「広報すぎなみ」8月15日号		
		練馬区	「ねりま区報」8月1日号		
	奨励賞	八王子市	「広報はちおうじ」1月1日号		
		小平市	「市報こだいら」3月20日号		
		調布市	「市報ちょうふ」5月5日号		
2 写真 (42)	(1) 一枚写真部 (24)	最優秀	瑞穂町	「広報みずほ」12月1日号	○
		一席	荒川区	「あらかわ区報」7月1日号	
		二席	日野市	「広報ひの」10月15日号	
			府中市	「広報ふちゅう」12月11日号	
	(2) 組み写真部 (19)	最優秀	足立区	「あだち広報」8月10日号	○
		一席	八王子市	「広報はちおうじ」9月1日号	
		二席	江東区	「こうとう区報」11月11日号	
			東大和市	「東やまと市報」4月15日号	
		奨励賞	羽村市	「広報はむら」5月15日号	
			中央区	「区のお知らせ 中央」11月1日号	
3 映像 (24)	最優秀	羽村市	テレビはむら春祭り特別番組五ノ神の山車前編～百年先を造る～	○	
	一席	品川区	三之助の笑顔いっぱいとおきの品川 可能性は無限大！義足のプロダンサー大前光市		
	二席	小金井市	小金井市市制施行60周年記念プロモーションビデオ 自然・環境編「ムジナ坂～わたしとはけとみず～」		
		江戸川区	ともに未来へ歩む～児童相談所と里親制度～		
	奨励賞	中央区	豊かな自然の中で…中央区立宇佐美学園		

\*表中 ( ) 内の数字は応募作品数。

# 広報紙部門

- 総評 . . . . . p. 7
- 最優秀作品紹介 . . . . . p. 1 0
- 一席作品紹介 . . . . . p. 1 2
- 二席作品紹介 . . . . . p. 1 4

## ＜広報紙部門 総評＞

### ●大井委員

メディアが偏在化する現代社会にあって、そして様々な広報媒体が利活用されるメディア環境にあって、紙媒体としての広報紙は今なお様々な、かつ重要な役割を担う。自治体は、文字情報として、伝えなければならない情報から、伝えておくべき情報、伝えておいた方がよい情報に至るまで、様々な情報を抱えている。それらの情報の価値・意義を吟味し、それに従った情報提供を心掛けることが大事であろう。もちろん提供すべきは単なる情報に限らない。住民の参加を促すような議論の提供も、複雑な利害が絡む問題について多角的な視点の提供も重要である。自治体の基本的な施策を理解してもらっただけではなく、支持・協力をもたらすような取り組みが必要である。

評者は、広報パーソンとして心掛けるべきことを、仕事柄常々考えてきたが、以下そうした心構えを掲記してみたい。平成の幕引きが近づく今、一つの時代が終わろうとしている今、広報パーソンとして「今何をしているのか」、「今何ができないのか」を問い直す機会にでもしていただければ、という思いからである。後者の課題は優れた広報パーソンの所与となる。

第一は、「楽しんで作ること」である。仕事であるから当然楽しいことばかりではなく、時にはつらいと思うこともあるだろう。作業が進まず時にはイライラが高じることもあるだろう。しかし、こうした思いは意外に広報紙にあらわれてしまうものである。製作者が仕事を楽しくしているか、そうではないかは「しのぶれど、色に出にけり」なのである。

第二は、「季節感をすくい上げることの重要性」である。日本は四季に恵まれ、その折々に様々な行事などが催される。さりげなく地域の季節感を取り入れる。広報紙を手にとって、「こんな季節になったのか」といった感慨を持って、読まれる読者も少なからずであろう。広報紙だけでなく、こうした切り口から読者を引き込んでいくことは大事な手法である。読者はいつでも読むことを止めることができる。最後まで読んでいただいでこそ、何からのリアクションを期待することができるのである。

第三は「マンネリズムとどう立ち向かうか」である。一般にマンネリと言ってあまり良い意味には使われないが、マンネリの効用もあるのである。毎号紙面が変わってしまえば、必要な情報になかなかたどり着けず、ストレスを感じる。慣れるまで使いづらいつらといったことが起こるだろう。企画記事はいざ知らず、情報提供、お知らせなどのページは、高度なマンネリが必要なのである。しかし、ある種のフォーマットについてマンネリは必要だが、表現は別物である。ただ伝えればよいと思っていないだろうか。絶えず、もっといい方法があるのではと模索することが大事なのである。ここではマンネリ打破が必要なのである。

第四は、「時代を先読みすること」である。かつて有能な広報パーソンに聞いたこんな話がある。その年の冬は、暖冬だったのか、積雪量が多かったのか、といった情報を分析して、夏はどうなるか、水不足が予想されないか、を先読みして、それに備える。「時代を先読みする」は大げさかもしれないが、常に先の展開を読むことは、広報紙にとって重要な心構えではなからうか。今は亡き評論家の扇谷正造氏は、「ジャーナリストは時代を半歩前すすむ」ことが大事であると説いた。この半歩前の精神は、広報パーソンにとっても重要だと思われるのである。

## < 広報紙部門 総評 >

第五は、「広報紙の再点検」である。広報紙といえども定期刊行物である。製作にあたっているスタッフにとって、この発行のサイクルは、立ち止まって考えてみる機会を奪いがちである。校了後すぐに次号にとりかかる。なかなか「広報紙とはなにか」を改めて問い直す機会などに恵まれないかもしれない。しかし、この原理論的問題を、「広報紙はどのように利用されているか」、「一方的な紙面づくりになっていないか」、「届けるべき情報はきちんと受け止められているか」といった問題に置き換えたらどうだろうか。これらの問題は、時を置いて、吟味する必要があるだろうか。一方的な紙面づくりになっていないか、届けるべき情報はきちんと受け止められているのか。

第六は、「町（人）の声を拾い上げる」である。人間にとって一番興味のあるのは人間であって、とりわけ自分である。ジャーナリズムの世界ではこうした声を拾い上げた記事を「町ダネ」という。実は意外に読まれているものなのである。何かの折に、自分や周囲の人に焦点があたり、紙面に登場する。本人及び関係者にとってはこの上もない喜びなのである。広報紙の基本方針や紙面の制約もあって、この種の試みは難しいかもしれないが、コラムのようなフォーマットで扱うことは可能であろう。身近さ、親しみ易さ、読者との距離の近さは広報紙の魅力につながる。英国ジャーナリズムの父と呼ばれたダニエル・デフォー（ロビンソン・クルーソーの著者）は、ひとに影響を与える文章の基本は「楽しませること」と喝破した。

最後になったが、仕事柄、たくさんの広報メディアに接する機会がある。そこで痛感するのは、読み比べの重要さである。他区町村の広報メディアを単に読むだけでも随分と参考になるものがあるはずである。もしあまりそうした機会がなければ、一度お試しあれ。



## ＜広報紙部門 総評＞

### ●長岡委員

広報紙メディアの優位性を活かした様々な企画に挑戦する、  
クリエイティブディレクターとしての広報担当者に期待したい。

どの応募作にも特集若しくは特集扱いの企画が設定されている。特集及び特集扱いのテーマは、地域の魅力を取り上げた情報・地域のボランティア活動情報・振り込め詐欺の防止情報・防災に係る情報等、様々な情報を取り上げている。いずれの特集も、地域や社会の「今」を写しだす鏡といえよう。編集のアプローチは、行政の様々な取組・住民と行政との協働・地域住民の活躍等を通して、啓発・啓蒙・協働等を促している。紙面表現も多く住民が紙面に登場し、紙上を通して企画内容が住民に身近に感じるリアリティのある紙面であろう。ただ、特集に充てる頁数の制約で、企画内容を深く掘り下げた編集が少ない。企画が優れた応募作も多く、編集で悔やまれる応募紙が多く見受けられた。

一方、施策情報及び住民生活に欠かせない紙面は、様々な支援施策及びイベント情報、子育てに係る情報・介護に係る情報・健康に係る情報等、情報が充実している。また、情報のカテゴリー別に区分タイトルと情報項目を表示し、情報を集約し整理した編集を施している。あわせて、毎号、情報を配置する紙面構成も統一化されている。住民にとって情報検索が容易に行える紙面で、住民視点に立った紙面編集が見てとれる。

紙面表現は、かつての新聞的な文字中心の表現からビジュアルを多彩に使い冊子型のデザイン表現が大半を占めている。情報区分で紙面表現を大きく変化させ、情報のメリハリと視覚的なメリハリを強調させ、情報に目を留まらせる表現工夫を施している。見せる広報紙を意識した表現が、多くの応募作に見ることができる。また、紙面の開き方も、縦開きから横開きである左開きの広報紙が年を追うごとに増えてきている。横開きが増えている要因は、縦組みに対して、横組みの文字組は情報量を多く掲載できるメリットがある。あわせて、表組及びグラフ等の情報訴求も多く、広報紙面をすべて横組みで表現する事が多くなってきている事も挙げられよう。横開きは、視線の誘導を考慮した広報紙の開き方といえよう。住民の読む視点を考慮し、年々向上する広報紙の表現力を紙面から感じる審査であった。

行政広報紙は、住民生活に欠かせない情報紙であり、住民と行政とを繋ぐコミュニケーションメディアとなっている。また、自治体は、WebをはじめInstagram・Twitter・Facebook・映像・ポスター・チラシ・冊子等、様々な広報メディアを活用し多くの広報活動を行っている。しかし、他の広報メディアと異なり全世帯に配布される広報紙は、住民自らメディアへのアクセス若しくは広報情報入手しようとする行動は少ない。広報紙は、情報の入手にわずらわしさが無い媒体の優位性が勝っているメディアといえよう。一方、全世帯に配布される広報紙は、様々な情報をいかに住民に紙面を読んで頂くかがキーポイントとなる。また、閲読効果を上げるための紙面企画及び編集と表現力の差が、広報担当者の技量の差となって表れる。ただ、昨今では、広報紙の編集及び表現の一部、または全ての制作を協力会社に委託する自治体も多い。その意味で、広報担当者のクリエイティブディレクション（制作に係る全ての現場責任者）能力が広報紙に問われている。住民の目を広報紙に集めるために、様々な企画と編集の切り口で情報を提案し、メディアの優位性を活かした広報紙が望まれる。広報担当者の更なる住民視点での挑戦に期待したい。

## 最優秀（全国広報コンクール推薦）

区市町村名	足立区
掲載号	あだち広報 2月10日号
発行部数	337,000部
年間発行回数	24回
規格	タブロイド判 12ページ
担当者数	4人（専任4人、兼任0人）
主な記事の掲載意図	<p>日本人にとって身も心も温くなる場所、銭湯。年々減少しているものの足立区の銭湯数（32軒。8月末現在）は都内上位であり、今なお多くの区民に親しまれる「地域の財産」である。それを証明するように、28年度に募集した「広報紙で特集してほしいテーマ」では銭湯を推す声が多数寄せられた。それらの声に応えるとともに、銭湯に馴染みが薄い若年世代へも銭湯の魅力を伝えるべく、あだち広報制作班4人が区内全銭湯を総力取材。その成果をカラー全面全てに凝縮したのが、今号の銭湯特集である。</p> <p>1面（表紙）には、宮造り建築の区内銭湯を真正面から撮影した1枚写真を採用した。写真の親子が暖簾をくぐって中へ入っていくように、読者にも広報紙を開いて中（見開き面）へ入ってほしいという想いを込めた1枚である。</p> <p>見開き面は、銭湯経験がない方や、小さな子どもがいる家庭でも目で見て楽しめるよう、銭湯図解図をはじめイラストを多く使用。「1入り口」から始まる入浴手順に「ケロリンのヒミツ」などの小ネタを盛り込み、さらに銭湯の象徴「銭湯絵」を紹介することで、従来からの銭湯ファンも楽しめる紙面を実現した。</p> <p>1面・見開き面で「銭湯に行ってみたい」と思った方のために、12面（裏表紙）では区内全銭湯の営業時間などをマップ付きで掲載。読者がお気に入りの銭湯と出会えるよう、宮造り建築、銭湯絵、露天風呂をアイコンで表している。</p> <p>この銭湯特集をきっかけに「区役所なのに銭湯気分」をコンセプトにした、浴場組合などとの連動企画が誕生。全銭湯の紹介パネルをはじめ、オカマドライヤーや幻の白ケロリン桶などを区役所1階区民ロビーで展示する様子が各種マスコミに取り上げられ、区内外から多くの方が来場した。銭湯の店主からは「広報紙や展示を見て来ました」と話す客が増えたという声が届いており、本特集が銭湯ファンを増やすことに貢献できたと感じている。</p>
審査委員コメント	<p>●「暖簾をくぐれば、別世界」銭湯特集は、区長さんの巻頭エッセイの軽妙さもあって、魅力的な紙面になっている。減少しつつあることが伝えられている銭湯が、本区では生き残るだけでなく「地域の財産」になっていることが、見開きの「ワンダーランド」解剖のイラスト、12面の銭湯マップと立体的に表現されており、見て読んでも楽しい広報紙となった。広報担当者のしてやったり感が伺える特集企画だ。（大井）</p> <p>●夜景の銭湯写真を1面に配置し、昭和を感じるレトロな表現である。また、特集の扉紙面を兼ね、住民の目を惹く紙面である。6～7面は、銭湯の楽しみ方をイラストと写真を用いて住民に分かり易く編集している。12面は、MAP及びアイコンを使い銭湯の場所と特徴を視覚的に分かり易く訴求している。各銭湯へ尋ねてみたい表現工夫を感じる紙面である。銭湯が、町の活力化とともに住民のコミュニケーションの場であることが読者に伝わる特集となっている。（長岡）</p>

▲ ADACHI CITY  
2018年(平成30年)  
2月10日 第1775号

# あたち 広報

暖簾をくぐれば、別世界  
— 高岡温泉 —



「暖簾をくぐれば、別世界」は、高岡温泉の魅力を伝えるための広報誌です。この号では、高岡温泉の歴史や文化、そして最新の温泉情報について詳しく紹介します。

**暖簾をくぐれば、別世界**  
— 高岡温泉 —

高岡温泉は、その歴史と文化を大切に守りながら、最新の温泉情報を提供しています。この号では、高岡温泉の魅力を伝えるための広報誌です。

高岡温泉の魅力を伝えるための広報誌です。この号では、高岡温泉の歴史や文化、そして最新の温泉情報について詳しく紹介します。

高岡温泉の魅力を伝えるための広報誌です。この号では、高岡温泉の歴史や文化、そして最新の温泉情報について詳しく紹介します。

高岡市広報 2018年(平成30年)2月10日発行(1775号)

# あたち銭湯MAP

高岡市銭湯の位置と特徴を詳しく紹介するマップです。各銭湯の名称、住所、営業時間、料金、特徴などを掲載しています。



**銭湯の位置**

- 1. 高岡温泉 高岡市高岡 1-1-1
- 2. 高岡温泉 高岡市高岡 1-1-2
- 3. 高岡温泉 高岡市高岡 1-1-3
- 4. 高岡温泉 高岡市高岡 1-1-4
- 5. 高岡温泉 高岡市高岡 1-1-5
- 6. 高岡温泉 高岡市高岡 1-1-6
- 7. 高岡温泉 高岡市高岡 1-1-7
- 8. 高岡温泉 高岡市高岡 1-1-8
- 9. 高岡温泉 高岡市高岡 1-1-9
- 10. 高岡温泉 高岡市高岡 1-1-10

**千種温泉**

- 11. 千種温泉 千種市千種 1-1-1
- 12. 千種温泉 千種市千種 1-1-2
- 13. 千種温泉 千種市千種 1-1-3
- 14. 千種温泉 千種市千種 1-1-4
- 15. 千種温泉 千種市千種 1-1-5
- 16. 千種温泉 千種市千種 1-1-6
- 17. 千種温泉 千種市千種 1-1-7
- 18. 千種温泉 千種市千種 1-1-8
- 19. 千種温泉 千種市千種 1-1-9
- 20. 千種温泉 千種市千種 1-1-10

**西野井温泉**

- 21. 西野井温泉 西野井町西野井 1-1-1
- 22. 西野井温泉 西野井町西野井 1-1-2
- 23. 西野井温泉 西野井町西野井 1-1-3
- 24. 西野井温泉 西野井町西野井 1-1-4
- 25. 西野井温泉 西野井町西野井 1-1-5
- 26. 西野井温泉 西野井町西野井 1-1-6
- 27. 西野井温泉 西野井町西野井 1-1-7
- 28. 西野井温泉 西野井町西野井 1-1-8
- 29. 西野井温泉 西野井町西野井 1-1-9
- 30. 西野井温泉 西野井町西野井 1-1-10

2月25日(土)午後9時～午後11時

高岡市広報 2018年(平成30年)2月10日発行(1775号)

# 銭湯 is ワンダーランド!

高岡市銭湯の魅力を詳しく紹介するガイドブックです。各銭湯の名称、住所、営業時間、料金、特徴などを掲載しています。



**1 スワロ**

高岡温泉の中心地にある銭湯。最新の温泉情報や、高岡温泉の魅力を伝えるための広報誌です。

**2 備台・フロント**

高岡温泉の中心地にある銭湯。最新の温泉情報や、高岡温泉の魅力を伝えるための広報誌です。

**3 洗い場**

高岡温泉の中心地にある銭湯。最新の温泉情報や、高岡温泉の魅力を伝えるための広報誌です。

**4 湯船**

高岡温泉の中心地にある銭湯。最新の温泉情報や、高岡温泉の魅力を伝えるための広報誌です。

**5 湯上がりのひととき**

高岡温泉の中心地にある銭湯。最新の温泉情報や、高岡温泉の魅力を伝えるための広報誌です。

高岡市広報 2018年(平成30年)2月10日発行(1775号)

# 銭湯 is ワンダーランド!

高岡市銭湯の魅力を詳しく紹介するガイドブックです。各銭湯の名称、住所、営業時間、料金、特徴などを掲載しています。



**3 洗い場**

高岡温泉の中心地にある銭湯。最新の温泉情報や、高岡温泉の魅力を伝えるための広報誌です。

**4 湯船**

高岡温泉の中心地にある銭湯。最新の温泉情報や、高岡温泉の魅力を伝えるための広報誌です。

**5 湯上がりのひととき**

高岡温泉の中心地にある銭湯。最新の温泉情報や、高岡温泉の魅力を伝えるための広報誌です。

# 一席（全国広報コンクール推薦）

区市町村名	豊島区
掲載号	広報としま特集版 10月1日号
発行部数	100,000部
年間発行回数	12回
規格	タブロイド判 8ページ
担当者数	6人（専任6人）
主な記事の 掲載意図	<p>【表紙から3面】 日本一の人口密度の豊島区が土地本来の樹種を混植・密植する方法をとり入れ、区民とともに10年かけて10万本を達成したことをきっかけに、さらに緑とともに育ちあう豊島区をアピールするために企画しました。全体的なねらいとしては、緑を身近に感じてもらいたいことを目標としています。</p> <p>表紙は見たときに興味を惹いてもらえるよう、区内に根付く植物をイラストと合わせて区内の植物を使って作られたハーバリウムの写真を配置することで視覚的に楽しめるようにしました。2・3面の作成にあたり、事前の下調べや取材を進めるなかで、緑は単純に鑑賞の対象としてだけでなく、まちづくりや教育といった、あらゆる分野に有機的につながっていることが明らかになりました。そこで「緑とのつながり」を軸として、身近な緑が持つ価値を紹介する記事を作成しました。</p> <p>【4・5面】 毎年10月から11月の週末をメインに毎年、池袋で行なわれるイベントを紹介する記事です。日頃から読者の行動につながる紙面を目指していますが、今年は2019年に行なう文化による都市交流「東アジア文化都市2019豊島」の気運醸成も意識してまとめています。</p> <p>各イベントの記事量を均一にすることで、紙面上の配置を整理し視覚的に見やすく整理しました。また、イベントへの参加を促す期待を込めて、記事内に共通の囲みを設けポイントとなる点も紹介しています。また、5面右側の囲みに「東アジア文化都市2019豊島」をお知らせする記事を配置しました。見開きで紹介したイベントが、区の文化資源や歴史的な背景とどのように関わっているかを紹介することで、「東アジア文化都市2019豊島」で発信する区の文化の一端を担うことを解説し、広報紙としてのオリジナリティを出しました。</p>
審査委員 コメント	<p>●人口密集の東京の中でも、本区が日本一の密集度だとは、不見識ながら知らなかった。が、土地本来の樹種を10年かけて10万本にしたという事実にもっと驚かされた。応募作は、装飾性をおさえた抑制的だが魅力的な紙面デザイン、2、3面の「緑とのつながり」をテーマにした紙面構成は秀逸である。4、5面の「週末散歩」がごちゃごちゃしているように思えるのは、そのせいだろうか。（大井）</p> <p>●植物のイラスト・ハーバリウムの写真が魅力的で、住民の目を惹く1面である。2～3面は、樹及び育樹に係る情報を様々な視点で訴求し、住民に分かり易く編集されている。1～3面は、ヒューマンな表現を施し、見やすさと共に緑の大切さを住民にソフトに語りかけた特集となっている。4～5面は、情報とごに区分を施し、イベントの要旨が編集されている。また、写真が効果的に使われている。イベント内容を視覚的にアピールしおり、住民の目を留める紙面であろう。（長岡）</p>



楽しむ、広がる、  
グリーンとしま

平成21年、10万本を目標に植樹運動が始まりました。それから10年たった今、にぎやかな都会のなかにも緑は少しずつ、しめしめ増えています。

詳しい内容は2-3冊をご覧ください。→

主な内容  
2-3冊 特集 「グリーンとしま」再生プロジェクト10万本達成  
緑とともに、育ちあう  
4-5冊 秋のいけばぶくろ週末散歩  
● 東京まさこい  
● 建築オーガムガールチャッフェスティバル  
シリーズ 東アジア文化都市2019豊島

国際アート・カルチャー都市としま  
東アジア文化都市 2019豊島  
Urban City of East Asia 2019 Toshima  
まち歩き、どきどき、文化がにぎわう。い。  
発行：豊島区 発行所：東島区民センター1001号室  
編集：国際交流推進課 〒177-8422 東京都豊島区西2-45-1 03-3987-1111  
ホームページ <http://www.city.toshima.lg.jp/>

## 「グリーンとしま」再生プロジェクト 10万本達成

### 緑とともに、育ちあう

「いのちの森」を育ぶきっかけ

「いのちの森」は、緑の豊かさ、自然の豊かさ、そして人々の豊かさ。緑の豊かさは、自然の豊かさ、そして人々の豊かさ。緑の豊かさは、自然の豊かさ、そして人々の豊かさ。

都市生活と緑のつながり

ヒートアイランド現象の緩和

防災機能

景観形成

動物多様性の保全

あつめた！ としまのグリーンスポット

### 緑のある生活

「いのちの森」を育ぶきっかけ

緑の豊かさは、自然の豊かさ、そして人々の豊かさ。緑の豊かさは、自然の豊かさ、そして人々の豊かさ。

動物多様性の保全

### 「いのちの森」学校の森」10万本達成記念式典

2018年11月17日（土）豊島区民センター1001号室

「いのちの森」学校の森」10万本達成記念式典

あらいぐま大冒険

区内の中学校

1 区民の森 豊島区民センター 1001号室

2 動物多様性の保全

3 あらいぐま大冒険

4 区内の中学校

## 二席

区市町村名	杉並区
広報紙名・掲載号	広報すぎなみ 8月15日号
発行部数	173,300部
年間発行回数	24回（通常号。この他に臨時号として1回発行）
判型・平均ページ数	タブロイド判 16ページ（臨時号は4ページ）
担当者数	4人（専任3人、兼任1人）
主な記事の掲載意図	<p>杉並区は昨年4月に広報紙を大幅リニューアルして以降、「区民参加」を意図して毎号発行しています。毎月1日号を区の政策や取り組みを特集し、15日号は「人（すぎなみピト）」を通して地域の魅力を集める号となっています。</p> <p>8月15日号は、杉並の路上に現れる「ベビーカーおろすんジャー」を取り上げました。「自分が住んでいるまちのために、何かしたい」そんな思いから始めたまちの掃除から、今では商店街の人たちまで巻き込んで子どもたちのためのイベント（おろすんまつり）まで開催するようになりました。一般の区民がボランティアで行っている活動を取り上げることで、区民の参画意欲を喚起させるよう意識しました。表紙には、おおよそ区報には似つかわしくない「戦隊もの」のコスチュームを身にまとったおろすんジャーを配し、インパクトを与えました。このことが、結果的に駅などに配置している広報の配布率もよく、NHKの取材も受けることになりました。まさに、「人」を通して地域の魅力を集めるというコンセプトに合致した号となりました。</p>
審査委員コメント	<p>●紙面の「リニューアル」の全体の意図は、紙面から断片的にしかうかがえないが、「区民参加」の視点はリニューアルがあろうがなかろうが常に重要である。問題はどのような企画を立てて紙面化するだ。「ベビーカーおろすんジャー」は評者もみたことがあり、「杉並」だったのかと合点した次第。「人（すぎなみピト）」のように、人（魅力的な題材）を通して地域の魅力をさりげなく語る方法は説得的だ。（大井）</p> <p>●1日号と15日号とで表紙及び巻頭紙面の企画を変え、発行号による訴求情報の区分けが施されている。住民の目を留める効果を考慮した広報紙となっている。特集は、区内で活躍する区民にスポットを当て、読者に共感を呼ぶ編集である。また、写真を効果的に使い視覚的な訴求が図られている。閲読効果が期待できる企画と編集である。他の紙面も、色・罫線等を巧みに使い視覚的な情報区分を施し、要旨を訴求した編集で情報が伝わる紙面である。（長岡）</p>

広報 すぎなみ

# Suginami



文芸あひ共につくる  
安全で活力あふみどりの住居都市 杉並

{ 8/15 }  
平成30年(2018年)  
No.2235

杉並の路上に参上する  
緑のレンジャーは誰？

言葉の一端、ある時は手書きを  
得て道を通す、ある時は道で閉じ  
ている人の手を助ける。緑色のコ  
スチュームに身を包んだ、そんなレ  
ンジャーを足踏け九とはありせんか  
？ 彼の名は「ベビーカーおろすん  
ジャー」。この名の子どもたちは人  
気者です。彼が活躍する「おろすん  
まっし」も読め、レンジャーの秘密  
を聞きました。



## 特集 ベビーカーおろすんジャー

Contents -主な記事-

7 | 本誌への参入 9 | 9月号からの巻頭ページ掲載です | 11 | 被災地・岡山赤十字社等へ義援金を派遣しました | 12 | 8月号は杉並区の歴史散歩が特別掲載です

☎ 03-6466-7070 杉並区役所総務課 1-15-1 | ☎ 03-62-2111(内線) FAX 03-62-8811(広報課直通) | 広報ホームページ: <http://www.city.suginami.tokyo.jp/> | 印刷: 執行/杉並区 | 編集: 杉並区  
出版者: すぎなみは月2回(1・15日)発行。休刊日なし。送料は別。紙の資源・紙・多機能ビジネスストアなどの印刷スタッフに提供しています。

2 | (C)Suginami, 2018 | 杉並区 | 03-6466-7070 | 杉並区役所総務課 | 1-15-1

12 | 8月号は杉並区の歴史散歩が特別掲載です | 11 | 被災地・岡山赤十字社等へ義援金を派遣しました | 9 | 9月号からの巻頭ページ掲載です

ヒーローでも何でもない。町の皆さんに支えられて楽しく活動しています。



「ヒーロー」って何をイメージする？ 超人、正義、正義感が強い、力強い、  
一人ですべてをこなす、など。でも、実はヒーローはもっと身近な存在で  
いるんです。それは、町を笑顔で彩る「ベビーカーおろすんジャー」の  
活動です。彼らは、町を笑顔で彩るために、日々活動しています。

「ベビーカーおろすんジャー」は、ベビーカーを安全に運転する  
ために、ベビーカーの運転方法を学ぶための活動です。彼らは、  
町を笑顔で彩るために、日々活動しています。



すぎなみは月2回(1・15日)発行。休刊日なし。送料は別。紙の資源・紙・多機能ビジネスストアなどの印刷スタッフに提供しています。



「ベビーカーおろすんジャー」は、ベビーカーを安全に運転する  
ために、ベビーカーの運転方法を学ぶための活動です。彼らは、  
町を笑顔で彩るために、日々活動しています。

「ベビーカーおろすんジャー」は、ベビーカーを安全に運転する  
ために、ベビーカーの運転方法を学ぶための活動です。彼らは、  
町を笑顔で彩るために、日々活動しています。

「ベビーカーおろすんジャー」は、ベビーカーを安全に運転する  
ために、ベビーカーの運転方法を学ぶための活動です。彼らは、  
町を笑顔で彩るために、日々活動しています。

「ベビーカーおろすんジャー」は、ベビーカーを安全に運転する  
ために、ベビーカーの運転方法を学ぶための活動です。彼らは、  
町を笑顔で彩るために、日々活動しています。

「ベビーカーおろすんジャー」は、ベビーカーを安全に運転する  
ために、ベビーカーの運転方法を学ぶための活動です。彼らは、  
町を笑顔で彩るために、日々活動しています。



「ベビーカーおろすんジャー」は、ベビーカーを安全に運転する  
ために、ベビーカーの運転方法を学ぶための活動です。彼らは、  
町を笑顔で彩るために、日々活動しています。

「ベビーカーおろすんジャー」は、ベビーカーを安全に運転する  
ために、ベビーカーの運転方法を学ぶための活動です。彼らは、  
町を笑顔で彩るために、日々活動しています。

「ベビーカーおろすんジャー」は、ベビーカーを安全に運転する  
ために、ベビーカーの運転方法を学ぶための活動です。彼らは、  
町を笑顔で彩るために、日々活動しています。

「ベビーカーおろすんジャー」は、ベビーカーを安全に運転する  
ために、ベビーカーの運転方法を学ぶための活動です。彼らは、  
町を笑顔で彩るために、日々活動しています。

「ベビーカーおろすんジャー」は、ベビーカーを安全に運転する  
ために、ベビーカーの運転方法を学ぶための活動です。彼らは、  
町を笑顔で彩るために、日々活動しています。



「ベビーカーおろすんジャー」は、ベビーカーを安全に運転する  
ために、ベビーカーの運転方法を学ぶための活動です。彼らは、  
町を笑顔で彩るために、日々活動しています。

「ベビーカーおろすんジャー」は、ベビーカーを安全に運転する  
ために、ベビーカーの運転方法を学ぶための活動です。彼らは、  
町を笑顔で彩るために、日々活動しています。

「ベビーカーおろすんジャー」は、ベビーカーを安全に運転する  
ために、ベビーカーの運転方法を学ぶための活動です。彼らは、  
町を笑顔で彩るために、日々活動しています。

「ベビーカーおろすんジャー」は、ベビーカーを安全に運転する  
ために、ベビーカーの運転方法を学ぶための活動です。彼らは、  
町を笑顔で彩るために、日々活動しています。

「ベビーカーおろすんジャー」は、ベビーカーを安全に運転する  
ために、ベビーカーの運転方法を学ぶための活動です。彼らは、  
町を笑顔で彩るために、日々活動しています。



「ベビーカーおろすんジャー」は、ベビーカーを安全に運転する  
ために、ベビーカーの運転方法を学ぶための活動です。彼らは、  
町を笑顔で彩るために、日々活動しています。

「ベビーカーおろすんジャー」は、ベビーカーを安全に運転する  
ために、ベビーカーの運転方法を学ぶための活動です。彼らは、  
町を笑顔で彩るために、日々活動しています。

「ベビーカーおろすんジャー」は、ベビーカーを安全に運転する  
ために、ベビーカーの運転方法を学ぶための活動です。彼らは、  
町を笑顔で彩るために、日々活動しています。

「ベビーカーおろすんジャー」は、ベビーカーを安全に運転する  
ために、ベビーカーの運転方法を学ぶための活動です。彼らは、  
町を笑顔で彩るために、日々活動しています。

「ベビーカーおろすんジャー」は、ベビーカーを安全に運転する  
ために、ベビーカーの運転方法を学ぶための活動です。彼らは、  
町を笑顔で彩るために、日々活動しています。



「ベビーカーおろすんジャー」は、ベビーカーを安全に運転する  
ために、ベビーカーの運転方法を学ぶための活動です。彼らは、  
町を笑顔で彩るために、日々活動しています。

「ベビーカーおろすんジャー」は、ベビーカーを安全に運転する  
ために、ベビーカーの運転方法を学ぶための活動です。彼らは、  
町を笑顔で彩るために、日々活動しています。

「ベビーカーおろすんジャー」は、ベビーカーを安全に運転する  
ために、ベビーカーの運転方法を学ぶための活動です。彼らは、  
町を笑顔で彩るために、日々活動しています。

「ベビーカーおろすんジャー」は、ベビーカーを安全に運転する  
ために、ベビーカーの運転方法を学ぶための活動です。彼らは、  
町を笑顔で彩るために、日々活動しています。

「ベビーカーおろすんジャー」は、ベビーカーを安全に運転する  
ために、ベビーカーの運転方法を学ぶための活動です。彼らは、  
町を笑顔で彩るために、日々活動しています。

すぎなみは月2回(1・15日)発行。休刊日なし。送料は別。紙の資源・紙・多機能ビジネスストアなどの印刷スタッフに提供しています。

## 二席

区市町村名	練馬区
広報紙名・掲載号	ねりま区報 8月1日号
発行部数	222,450部
年間発行回数	36回
判型・平均ページ数	タブロイド判 9.2ページ
担当者数	5人（専任5人）
主な記事の掲載意図	<p>夏休み子ども向け特集として、1・2・7・8面を使用し、テーマを「練馬の地下には、何がある？」として紙面を作成しました。</p> <p>レイアウトは紙面を縦に使用し、地下の深さを感覚的に理解しやすいように工夫しています。</p> <p>メインターゲットである小学生にも人気がある練馬区公式アニメキャラクター「ねり丸」を案内役に使用し、より親しみやすい構成にしました。また、小学生でも簡単に読めるよう、イラストと写真を多く使い、文字を少なくしたほか、小学4年生以上で習う漢字にはルビをふっています。</p> <p>紙面だけでなく、動画でも楽しめるよう、東京都の協力をいただき、都営大江戸線の地下への搬入シーンなどを紹介する動画への誘導を図りました。さらに、図書館とコラボレーションし、図書館に区報の紙面と関連する本と一緒に展示する企画を行い、もっと深く学びたい読者に興味を持っていただくことができました。</p>
審査委員コメント	<p>●夏休み子ども向け特集が4面にわたって文字通り多面的に展開されており、まさに「特集」の名に値する紙面に仕上がった。「練馬の地下には、何がある？」はちょっと意表を突かれた。考えてみれば地下に張り巡らされた地下鉄網は、子どもの探検心をくすぐる絶好のテーマである。夏休みの「自由課題」にこのテーマに絡めた「作品」や「自由研究」が沢山生まれたのではないかと夢想してしまう。（大井）</p> <p>●子供向けの特集は、企画の内容を考慮し、タブロイド判から紙面を開くことでプランケット判の大きさに変化させ、地下の深さを表現したアイデアのある演出紙面となっている。子どもが興味を抱く工夫を感じる紙面である。また、訴求情報もキャラクター・写真・イラスト等を用いて、地下の情報を分かり易く編集と表現が施されている。図書館の情報も掲載し、子供たちの自由研究のヒントとなる紙面である。「お知らせ」情報も、項目ごとに情報を整理した編集となっている。（長岡）</p>



この紙面は  
抜き取って  
読んでね!

夏休み子ども向け特集

## 練馬の地下には、何がある？

～練馬のことをもっと知ってみよう

練馬区の地下には何があるのか知ってる？昆虫や植物が見つかるだけでなく、みんなの暮らしを便利にしてくれるものもあるんだ。一緒に地下ものをぞいてみよう！

▶電話番号：広報係5984-2690 総務課3993-1194



Q. 練馬大根はどっち？

練馬大根は、ヨーロッパからやってきた。産地が練馬に伝わり、今でも練馬大根が主産品です。

### カブトムシの幼虫

カブトムシの幼虫は、土の中で生活しています。土の中の空洞や隙間に住んで、カブトムシの一生を過ごすのです。

### 縄文土器

縄文時代の土器は、石神井川流域に多く見られます。縄文時代の生活の様子を知ることができます。

8/12日 まで

石神井川流域の縄文文化や歴史を展示中

企画展「石神井川流域の縄文文化」(入場無料)

縄文土器などさまざまな展示品を展示中

▶日時：8月12日(土)～13日(日) 午前10時～午後4時 休日は休館、▶場所：展示所 石神井川流域縄文文化館(0996-4060)

練馬大根を育ててみよう!

練馬大根の育て方を紹介します。詳しくは3ページへ

A. 左が練馬大根

練馬大根は、ヨーロッパから来た。産地が練馬に伝わり、今でも練馬大根が主産品です。

### 水道管

水道管は、地下1メートルほどに埋め込まれています。きれいな水を私たちの家まで運ぶ役割を担っています。

### 電力ケーブル

電力ケーブルは、地下2メートルほどに埋め込まれています。私たちの生活に必要な電力を運ぶ役割を担っています。

### 練馬の土は野菜や果物の栽培にぴったり!

練馬の土は、野菜や果物の栽培にぴったりです。おいしい野菜や果物を育てることができます。

もっと深いところには何があるのワクワクするわ!

つつきは裏面を見てね!

### 下水道管

下水道管は、地下3メートルほどに埋め込まれています。私たちの生活に必要な排水を運ぶ役割を担っています。

練馬区の農業の魅力を紹介する動画を作りました。夏休みの自由研究にぜひ使ってください!

紹介の文庫 練馬

## 奨励賞

区市町村名	八王子市
広報紙名・掲載号	広報はちおうじ 1月1日号
発行部数	281,000部
年間発行回数	24回
判型・平均ページ数	A4判 16ページ
担当者数	7人
主な記事の掲載意図	<p>本号は、まちで活躍する大学生に着目して構成した。八王子は21の大学などがあり、10万人近くの学生が学ぶ全国でも有数の学園都市である。その中には授業や課外活動などを通じて、地域住民や企業と協力し、まちを盛り上げている学生がいる。</p> <p>本号では、八王子まつりを題材にした映画を制作する学生、団地の中で多世代交流のカフェを運営する学生、地元産のお米を使ってパンを開発する学生にインタビュー。</p> <p>地域の大人たちとのつながりや、まちへの思いなどを語ってもらい、市民にまちを盛り上げる若い力を感じてもらえる紙面をめざした。</p>
審査委員コメント	<p>●冊子型の広報紙の特性を生かした特集はいつも魅力的だ。伝統や文化的資源に着目した特集が多かった記憶がある。応募作では、「学園都市」でもあるという本市の特徴が、特集「輝け！学生のチカラ」において魅力的に掘り下げられており、読み応えのある紙面になっている。この特集企画は、多面的な展開が期待される題材だけに、視点を変えたアプローチで取り組んでみる価値がある。（大井）</p> <p>●特集は、地域の活性化・活性化に取り組んでいる学生たちにスポットを当て、学生による地域の魅力づくりが住民に伝わる編集である。また、学生企画事業補助金の情報を掲載し、学園都市ならではの市政が伺える。ただ、活動に対する住民の反応をもう少し多く掲載する事が望まれる。他の紙面は、情報が異なるごとに区分のタイトルを設け、情報意図が伝わる編集である。また、区分ごとに色を変え、情報を整理し集約した紙面構成で分かり易く訴求されている。（長岡）</p>



「あんなに楽しく活動するのは、久しぶりです。自分たちで企画したイベントは、自分たちで準備し、自分たちで実行する。それが、学生生活の醍醐味だと思います。また、自分たちが企画したイベントは、自分たちで準備し、自分たちで実行する。それが、学生生活の醍醐味だと思います。また、自分たちが企画したイベントは、自分たちで準備し、自分たちで実行する。それが、学生生活の醍醐味だと思います。」

## 特集 輝け！学生のチカラ

21の大学などがある京浜有数の学園都市「八王子」。このまちでは10万人近い学生が学んでいます。今号では、まちで活躍する学生に登場。自由な発想と豊富なアイデアを活かし、活動する姿に迫ります。

神戸、夏を彩る八王子まつり、その中心で映画を撮影した学生に登場。まちの人の関わりや、撮影を通じて感じたまちへの思いを聞きました。

### まちで映画を作る学生



撮影 高貴さん(左)、柳川 純海さん(右)

東京工科大学メディア学部3年生、八王子まつりを舞台にした映画を自主制作。高貴さんが監督、純海さんがプロデューサーを務める。

### 映画で伝えたいまちのあたたかさ

「どうして八王子まつりで映画を作ろうと思ったんですか？」  
高貴さん「八王子の町並みや、祭りなどの風景が大好きなんです。僕らが学生生活を送るのもここなんです。自分たちが生活しているまちを、自分たちが撮影して、自分たちが制作して、自分たちが観る。それが、僕らの目標なんです。」  
純海さん「僕らは、このまちのあたたかさを、映画で伝えたいんです。僕らは、このまちのあたたかさを、映画で伝えたいんです。」



「映画制作を通じて、自分たちのまちのあたたかさを、自分たちが撮影して、自分たちが制作して、自分たちが観る。それが、僕らの目標なんです。」

「カメラを通して見た八王子まつりって、すごくいいですね。僕らは、このまちのあたたかさを、映画で伝えたいんです。」

# 奨励賞

区市町村名	小平市
広報紙名・掲載号	市報こだいら 3月20日号
発行部数	72,000部（～6/20号）、98,000部（7/5号～）
年間発行回数	年24回（ほか特集号1本程度）
判型・平均ページ数	タブロイド判 8ページ
担当者数	2人（専任1人、兼任1人）
主な記事の掲載意図	<p>小平市名誉市民である平櫛田中を紹介する特集記事です。平櫛田中の知名度を上げることと、春の散策ついでに小平市平櫛田中彫刻美術館に足を運びきっかけづくりを目的として作成しました。</p> <p>記事を読み進めやすくするため、物語風の内容にして「鏡獅子」の面と「小平での暮らし」の面に分けています。</p> <p>田中の最高傑作「鏡獅子」から田中に関心を持ってもらうために1面・2面で大きく鏡獅子の写真を使いました。白黒写真で鏡獅子製作に挑む姿から紙面を開くと、色鮮やかな姿の鏡獅子が現れるよう配置し、作品へのインパクトと、美術館に行って鏡獅子を見る目的につなげたいと考えました。</p> <p>3面では、小平での生活を紹介しています。記事を読んだ人が美術館で作品を見た時に田中の思いをより感じられるよう、人間性が伝わるようなエピソードを中心に紹介しています。</p> <p>12面では「健康ガイド」を特集し、子育て世代の人が関心をもてるよう漫画風に作りました。端的・簡潔に大切な部分の活用方法を伝えて、手元に健康ガイドを置きたくなるような内容にしました。</p>
審査委員コメント	<p>●応募作の特集テーマは、彫刻美術館が立地する本市の名誉区民「平櫛田中」。1面の製作に取り組む田中の迫力満点の写真から始まり、2、3面の展開は読みごたえがある。地域の文化的資源、とりわけ「人物」は様々なアプローチが可能だが、応募作はライフストーリーが作品が巧みに組み合わせられ、美術館に足を向けて力作を鑑賞してみようという気を起させる紙面になっている。楽しみながら作られる紙面は必ず読者に伝わる。（大井）</p> <p>●特集は、1面の座右の銘、2面の彫刻にかける情熱、3面の小平市との関係等、平櫛田中の魅力が読者に伝わる編集である。また、表現も写真を効果的に使い、インパクトのある紙面に表現されている。美術館に行きたくなる特集である。12面は、4コマ漫画の表現手法を使い、健康ガイドの活用方法を分かり易く訴求されている。住民に興味を抱かせるアイデアのある編集方法である。6面の「市長への手紙」は、提言に対する回答を掲載し2WAYの編集に好感が持てる。（長岡）</p>



野島を代表 野島に共有利便施設  
戸部地区への移住支援計画 ..... 4面  
小平めぐるメロウ ..... 7面  
野島で暮らし続けるこだいの未来 ..... 12面



# 平櫛田中の挑戦

いまやわねば  
わがやわねば  
たれがやる

平櫛田中が「わねば」の挑戦を続ける理由。それは、日本を代表する彫刻家としての矜持と、地域を愛する情熱にある。彫刻を通じて、人々の心を揺るがし、社会を動かすことを目指している。

平櫛田中 (平 田中) 氏インタビュー

平成30 (2018) 3.20

## 田中が愛した地 小平



田中が愛した地、小平。自然豊かな環境と、歴史ある街並みが魅力。田中は、この地で多くの作品を生み出し、地域を愛する情熱を注ぎ込んでいる。

小平の魅力を伝えるための取り組み。アートや文化イベントを通じて、地域を活性化させようとしている。

この企画は、2018年3月20日発行の「こだい」に掲載された。内容は、田中氏の作品や、小平の魅力を伝えるための取り組みについて紹介している。

**アートがよ**  
田中氏の作品は、力強い彫刻と、繊細な彫刻とがあり、それぞれが異なる魅力を放っている。アートを通じて、人々の心を揺るがし、社会を動かすことを目指している。

**文筆の研究**  
田中氏は、彫刻だけでなく、文筆にも力を入れている。小説やエッセイを通じて、人々の心を揺るがし、社会を動かすことを目指している。

**旅行**  
田中氏は、旅行を通じて、人々の心を揺るがし、社会を動かすことを目指している。

**平櫛田中彫刻美術館**

〒140-0201 東京都小平市山手町1-1-1  
TEL: 042-347-0999

50名以上予約  
10名以上予約  
5名以上予約

# 奨励賞

区市町村名	調布市
広報紙名・掲載号	市報ちょうふ 5月5日号
発行部数	123,400部
年間発行回数	定例号24回（毎月5日号・20日号。1月のみ新春号・20日号）、 特集号・臨時号は随時
判型・平均ページ数	タブロイド判 4又は16ページ
担当者数	5人（専任 人、兼任 5人）
主な記事の掲載意図	<p>1面：今回の特集が「地域で子どもを育てよう」であることを伝えるために、特集で密着した家庭の写真を大きく使い、特集面への誘導につなげました。</p> <p>8・9面：5月5日の子どもの日にちなんで、ファミリー・サポート・センター事業の協力会員を取り上げました。ハードルが高いと受け止められがちな協力会員に密着し、その魅力と活動内容を伝えることで、協力会員の増員を狙いました。結果として、市報発行から1か月で約10人の方が新たに協力会員になりました。</p> <p>全体を通して：市政情報をテーマ別に見出しをつけて掲載することで、読み手が探している記事を見つけやすいように工夫しています。特にニーズがある「子育て」と「福祉」についての記事は、その他の市政情報と色分けをしています。</p> <p>また、写真を多用し、改行を工夫することで余白に余裕をもたせ、視覚的に分かりやすい紙面になるように心掛けました。市政情報やお知らせ面に囲みを配置することで、流し記事の読みやすさにつなげています。</p>
審査委員コメント	<p>●子どもの日にちなんだ1面の「地域で子どもを育てよう」と、8・9面の「ファミリー・サポート・センター」事業が巧みに組み合わせられた紙面化がなされており、協力会員の実績もあがったというのもうなづける。少子高齢化社会のキーワードは「子育て」と「福祉」、基礎自治体にとって常に念頭に置くべき事業であり、広報紙ととしても折に触れて、多様な紙面化をはかってほしい。（大井）</p> <p>●ファミリー・サポートセンター事業の協力会員増員を図った紙面企画は、協力会員と依頼会員の情報を通して地域での子育てとやりがい、読者に強く伝わる編集である。また、写真を多彩に使い、生き生きとした表現が施されている。下面には子ども家庭支援センターの情報も配置し、市政の子育てに対する熱心な姿勢が伝わる紙面である。また、3面・4面には、児童及び子育てに関する市政からの様々な情報を配置し、住民視点での紙面構成となっている。（長岡）</p>

CONTENTS (主な内容)	1
子育て支援活動「ファミリー・サポート・センター」	2
子育て支援活動「ファミリー・サポート・センター」	3
子育て支援活動「ファミリー・サポート・センター」	4
子育て支援活動「ファミリー・サポート・センター」	5
子育て支援活動「ファミリー・サポート・センター」	6
子育て支援活動「ファミリー・サポート・センター」	7
子育て支援活動「ファミリー・サポート・センター」	8
子育て支援活動「ファミリー・サポート・センター」	9
子育て支援活動「ファミリー・サポート・センター」	10

## 特集 地域で子どもを育てよう

**あなたも「ファミサポさん」になりませんか？**

「近所でちょっと子どもを育ててくれると助かるんだけど…」  
「東家は遠くて…」「近くに頼れる人がいないから…」  
そんな子育て中のママ・パパのためにあるのがファミリー・サポート・センター事業。子育てをお手伝いできる方が「協力会員」として、お手伝いして欲しい方が「依頼会員」として登録する制度です。  
今回は、協力会員として活躍する「ファミサポさん」の活動に取材しました。

子育て支援活動「ファミリー・サポート・センター」は、子育て中のママ・パパのために、地域で子どもを育ててくれる人を募集しています。子育てをお手伝いできる方が「協力会員」として、お手伝いして欲しい方が「依頼会員」として登録する制度です。

朝市新聞社印刷部

## 特集 地域で子どもを育てよう

### ファミリー・サポート・センターって？

子育てをサポートしてほしいママ・パパのためにあるのがファミリー・サポート・センター事業です。子育てをお手伝いできる方が「協力会員」(ファミサポさん)として、お手伝いして欲しい方が「依頼会員」として登録する制度で、センターがそれぞれの希望に合わせて会員同士の手配を行います。

### ファミサポさんの活動

- ファミサポさん(協力会員)/ワタナベさん(依頼)
- 依頼員のお子さん/4歳の女の子(左)

**幼稚園のお迎えに行くと、とっても喜んでくれて嬉しいです。**

最近、ファミサポさんをやっていることを知っている同い年ジャンクションの人からの依頼が多く、「ワタナベさん」と呼ばれているみたいです。「ありがとうございます」とお礼を言ってくれます。実を言ってしまうと、とてもやりがいを感じます。

**午後5時**  
この時間には依頼は1件くらいになります。特に3時から4時、ワタナベさんの自宅に依頼が多いです。

**午後6時15分**  
依頼が少なくなると、依頼員と一緒に帰ります。

**ファミサポさんになってみて①**  
他の依頼員さんと比べると、午前中まで働くことがありません。朝は7時から夕方まで働くことが多く、依頼員さんに合わせて働くことができます。依頼員さんに合わせて働くことができます。依頼員さんに合わせて働くことができます。

**午後7時** お子さんをお迎えに来ます。

**ファミサポさんになってみて②**  
「お礼を言ってくれる方が多く、本当に感謝しています」といって、依頼員さんに感謝の言葉を言ってくれます。依頼員さんに感謝の言葉を言ってくれます。依頼員さんに感謝の言葉を言ってくれます。

<p><b>すこやかでお預かりします</b></p> <p>依頼員の性別、出張、食事、洗濯などにより、1時間以内の子どものお預かりが可能です。依頼員にお預かりします。</p> <p>即呼出し 30分～午後7時 (指定での利用も可) 即呼出し 1日5人、週市3回3日5人 即呼出し 1日1人、週市3回3日5人</p>	<p><b>短ったときのショートステイ</b></p> <p>依頼員の性別、出張、食事、洗濯などにより、1時間以内の子どものお預かりが可能です。依頼員にお預かりします。</p> <p>即呼出し 30分～午後7時 (指定での利用も可) 即呼出し 1日5人、週市3回3日5人 即呼出し 1日1人、週市3回3日5人</p>	<p><b>たまにはゆっくりすこやか保育</b></p> <p>依頼員の性別、出張、食事、洗濯などにより、1時間以内の子どものお預かりが可能です。依頼員にお預かりします。</p> <p>即呼出し 30分～午後7時 (指定での利用も可) 即呼出し 1日5人、週市3回3日5人 即呼出し 1日1人、週市3回3日5人</p>	<p><b>夜間のお預かりトワイライトステイ</b></p> <p>依頼員の性別、出張、食事、洗濯などにより、1時間以内の子どものお預かりが可能です。依頼員にお預かりします。</p> <p>即呼出し 5時～午後10時 即呼出し 1日10人 即呼出し 1日10人、週市3回3日5人</p>
---	--	---	---

# 写真部門

- 総評 . . . . . p. 1 9
- 一枚写真部 . . . . . p. 2 1
- 組み写真部 . . . . . p. 3 0



## <写真部門 総評>

### ●一枚写真の部

今年度も力作が多く、楽しく拝見させていただきました。年々「区民、市民の目を引くように...」でありますとか、「空気感を伝えるため...」等々、写真をベースにした広報誌を目指す自治体が増えてきましたね。以前は告知、記事の説明用として掲載されることの多かった「写真」ですが、「写真」を活用した告知、記事への誘導事例も増えました。デジタルカメラの性能も格段に良くなってきたためでしょうか、応募作品はとても綺麗に撮影されています。せっかくの良い写真ですので、可能な限り写真の上にテキストを乗せず、写真を生かした広報誌を期待しています。

### ●組み写真の部

広報誌の「組み写真」では、特集記事、一面の告知、募集等で使用されることが多いと思います。特集記事で使用する場合は「テーマ」が大きすぎると（様々な催し物の集まったイベント等）、写真同士の関連性がわかり難くなってしまいますし、告知、募集等で使用する場合は、該当案件の説明用の写真、告知テキストの背景写真のようになってしまいます。「組み写真」なので、写真を中心に写真同士を連携させて、足りない部分をテキストで補うようなレイアウトを目指して下さい。

# 写真部門 一枚写真部

- 最優秀作品紹介 . . . . . p. 2 1
- 一席作品紹介 . . . . . p. 2 3
- 二席作品紹介 . . . . . p. 2 5

## 最優秀（全国広報コンクール推薦）

区市町村名	瑞穂町
広報紙名・掲載号	広報みずほ 12月1日号
掲載意図	<p>写真は、町内の小学校の授業で行われた稲作体験学習の1ショットです。</p> <p>学校のすぐそばに、「滝田谷津」という狭山丘陵から湧き出た清らかな水が集まる湿地があり、毎年、小学生の稲作体験学習に利用されています。</p> <p>狭山丘陵の豊かな恵みと子どもたちの愛情ですくすくと育ち、頭を垂れる稲穂。子どもたちは、立派に成長した稲穂を嬉しそうに刈り取っていました。それだけではなく、実った稲穂を一粒も無駄にしないように仮落ちた「稲穂」もすべて拾い、大きな稲束をその両腕に抱えていました。</p> <p>この稲束の重みが、収穫の喜びなのではないでしょうか。</p> <p>学校内にいるだけでは決して学べないこと、毎日食べているお米がどれだけ手をかけて作られているのかということ、身をもって学ぶことができたと思います。</p> <p>食品ロスの問題が叫ばれる中、実りの全てを腕に抱え、食物をいただく重みと喜び、感謝などを感じていた子どもの表情や重そうな稲束を抱えた様子を通し、住民の皆様に食物を大切にいただくことを、今一度、かんじてもらえたらとの思いから、シャッターを切り、表紙に採用しました。</p>
審査委員コメント	<p>●とても良い笑顔ですね。良い瞬間を捉えています。紙面上でのトリミングもバランスが良く、テキストも写真を生かした配置になっています。小学校の「稲作体験学習」とのことですが、このような体験を生かして「食品ロス」が無くなっていくといいですね。元写真ですが、画面中心のフォーカスポイントに合わせた構図になっているようですね。フォーカスを顔に合わせたまま、全身を入れた構図にすると更に良くなると思います。</p>

# みずほ

広報

mizuho information

2018

12

No.683

この重み  
収穫の喜び！



# 一席

区市町村名	荒川区
広報紙名・掲載号	あらかわ区報 7月1日号
掲載意図	<p>7月1日は初夏と呼べる時期であるが、実際には、梅雨が明けきらず、じめじめとした天候が続くことが多い。そのため、目前へと迫っている本格的な夏に向けて、区報が夏の到来を告げ、区民の気持ちを前向きで明るいものにしたと考え、企画を立案した。</p> <p>また夏の時期はスポーツイベントや子ども向けのワークショップといった区の事業が多く実施されることもあり、区民の夏への機運を高めるとともに、そうした事業への参加を強く促したいと考えた。</p> <p>そこで、「夏の到来を告げる」というコンセプトに基づき、写真の構成を検討した。条件として、①屋外 ②複数人の子ども ③ダイナミックな構図 ④夏らしい小道具 を設定し、また、読者一人ひとりにとっての「夏」を思い浮かべてもらうため、イベントの実施風景等ではない、抽象度の高い様子を撮影したいと考えた。</p> <p>撮影時においては、子どもたちの表情をしっかりと捉えるため、地面に腹ばいになり、大きく見上げるようにシャッターを切った。また、より誌面に動きを作るため、カメラを傾けて地面が斜めになるよう撮影し、その角度に合わせてタイトルやリード文をレイアウトした。さらに、誌面最上部（「あらかわ区報」の題字部分）まで写真を敷き、夏らしい高い空を表現した。</p>
審査委員コメント	<p>●「夏」を感じる写真です。子どもたちの表情も良いですね。躍動感も出ています。レイアウトを考えて撮影されたとの事、バランスのとれた良い紙面になっています。写真を大きく使ったことで、空の高さも感じられます。出来れば後ろの子供さんも飛び上がってもらうか、せめて表情が分かる配置にしたいですね。元写真も日差しが強い中、子供たち、空の青さ等とてもよく描写されています。これからも良い紙面を作って下さい。</p>

# あらかわ 区報

一般写真  
公募へ

平成30年  
7月1日  
No.1625

主な内容

- 4・5・8面◆夏のイベント大特集
- 6面◆第10回あらかわ「緑・花」大賞の候補を募集します

荒川区 ☎(3802)3111 ㊟(3802)6262 ㊚http://www.city.arakawa.tokyo.jp/ ㊛http://www.city.arakawa.tokyo.jp/keitai/

## あらかわの 夏は すぐそこ!

7月に入り、本格的な夏はもう目の前までやってきました。  
体を動かす、旅行をする、自由研究に精を出す。  
区内には、夏を彩る楽しいイベントがたくさんあります。  
大人も子どもも、目いっぱい楽しむ準備を始めましょう。



4・5・8面で夏のイベントを紹介します

荒川自然公園

一般写真公募へ

## 二席

区市町村名	日野市
広報紙名・掲載号	広報ひの 10月15日号
掲載意図	<p>「平家物語」や「吾妻鏡」に登場する郷土の武将「平山季重（すえしげ）」にちなんで開催される「平山季重まつり」の紹介のため、実行委員長の根津幸男さんと、企画運営を担う地元の郷土史家・イベントアーの金子真さんを表紙に起用しました。</p> <p>金子さんは「市民参加型郷土史体感イベント」の制作・監修を行う団体「武者所」を主宰し、全国各地の自治体と協働して様々なイベントを成功させている方で、自作の甲冑や小道具は本物さながらのクオリティを誇ります。</p> <p>平山季重まつりは、地元の方にはなじみのあるイベントとして定着していますが、平山季重という武将の歴史や人物像に迫ることで、平山地域に限らず、市民の皆様に平山季重に愛着を持ってもらえるよう、本号の表紙および記事を作成、掲載しました。今回の写真は、細かいところまで丁寧に作りこまれた甲冑の魅力や質感を最大限に伝えられるよう、「暗い美術館の中で、スポットライトの光で浮かび上がる国宝級の甲冑のように」というイメージをカメラマンと共有し、撮影に臨みました。被写体の背景には、「平山季重まつり」での記念撮影ブースに毎年設置している、歌川広重により描かれた季重の姿を大判印刷したターポリンを広げ、一枚の写真の中に、過去から現在までという時間的な厚みが出ることを狙いました。</p> <p>実行委員長にも直垂を着用してもらい、まるで大河ドラマや時代劇映画のような空間を演出することで、2面に続く季重の紹介記事にスムーズに没入してもらえることを意図しています。</p>
審査委員コメント	<p>●地元イベントの紹介ですね。衣装、撮影共に完成度の高さを感じます。日野市広報の写真は毎回素晴らしく、参考にさせていただきます。紙面上では人物の周りにテキストをバランスよく配置していますね。今後も良い紙面を楽しみにしています。</p>

広報

5 みなみの恵み1周年感謝祭

16 ブロック塀などの撤去・改良費用の一部を補助します

16 総合防災訓練

別冊  
特集

日野市のごみ情報誌「エコー」

平成30年(2018年)

10月15日号

第1433号

平成最後の弓合戦  
平山季重まつり



## 二席

区市町村名	府中市
広報紙名・掲載号	広報ふちゅう 12月11日号
掲載意図	<p>交通事故が多くなる12月に、交通安全を呼び掛ける内容を掲載した。写真は警視庁騎馬隊が小学生の登校を見守っている様子を撮影。なお、警視庁騎馬隊は、東京2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の馬術競技が馬事公苑で行われることに伴い、一時的に府中市内にある東京競馬場に警視庁騎馬隊が移転しており、東京競馬場に近い第八小学校の通学路で登校時に学童交通整理を実施している。</p> <p>登校中の子ども達と見守っている騎馬隊の方が笑顔で映っていることにより、まち全体で子ども達を見守っている印象を与えるよう工夫した。</p> <p>また、写真のように信号なども気をつけて渡ってほしい、という意図も込めている。</p>
審査委員コメント	<p>●「交通安全」大切なテーマです。街に馬が写っていると「何だろう？」と目を引きますね。元写真はとてもよく撮れています。子どもたち、騎馬隊の方の表情もいいですね。紙面上でのトリミング時に左側の自動車がカットされています。自動車の列があったほうが「交通」感が出たと思います。欲を言えば馬の顔がもう少し上がっていて欲しかったかな。</p>

●発行 ①府中市 ●編集 政策総務部広報課  
〒183-8703(府中駅前通) 府中市高野町2の24  
●代表電話 042-364-4111 ●FAX 042-368-1457  
●ホームページ <http://www.city.fuchu.tokyo.jp/>

主たる事業  
2 面…市民協働のまちづくりカフェ  
3 面…フ人制ラグビー日本代表キャンプ  
3 面…ラグビーのまち府中デー



世帯数 125,354(391減) 人口 男130,890(361減) 女129,446(37増) 計260,336(324減) うち外国人住民数5,326 (平成30年10月現在) (注:総人口)

## 師走に潜む交通事故の影 人も車も自転車も 思いやりのある行動を



▲八小の交通安全教室  
警視庁府中署

年末は先を急ぐ人が多い中、交通事故が急増します。人も車も自転車も、皆さん一人ひとりが交通ルールを守り、時間にはゆとりを持って行動しましょう。また、相手を思いやる優しい気持ちで譲り合い、悲惨な交通事故をなくしましょう。  
問合せは、地域安全対策課安全係(335・4147)、または府中警察署交通課(360・0110)へ。

### 交通事故の状況

市内では、平成30年10月末現在で342件の交通人身事故が発生しており昨年より5社増加しています。また、市内でも死者数が減少していますが、人身事故の件数は増加しています。  
12月は1年を通じて最も交通事故が発生する時期であり、特に夕暮れ時の午後4時から暗くなるまでに多く発生しています。また、依然として自転車に関与する事故が多く、交通事故全体に対する自転車の関与率は40.6%、加齢者が関与する事故も31.9%と高水準で推移しています。

### 年末年始における 交通事故防止のポイント

ドライバー・歩行者の皆さんへ

#### 横断歩道における歩行者保護の徹底

信号機のない横断歩道を渡っている歩行者が被害者となる事故が多く発生しています。横断歩道は歩行者優先です。横断歩道の手前には「横断歩道あり」の道路標示を見逃したら必ず減速し、歩行者がいる時は停止してください。  
また、横断歩道ではドライバーと歩行者が視線を交わし、お互いに安全を確認してから通行しましょう。

#### トワイライト・オン運動

年末にかけて夕暮れ時の歩行者の交通事故が増加する傾向にあります。日没前の午後4時には、車両のヘッドライトを点灯しましょう。  
また、歩行者は夜間に外出するときは、ドライバーから見えやすい明るく目立つ色の衣服を着用したり、反射材用品身に付けていたりして自分の身を守りましょう。



### 警察の府中

府中市長 高野 律雄

街はクリスマス一色に彩られ、大開地神境内も神事の色が濃くなってきたような気がしますが、平成最後の年末も残りわずか、一年を振り返る時間となりました。  
私の今年の漢字は「猛」やはり、猛烈な嵐、猛烈な雨、猛烈な雪、猛烈な寒さなど、これまでにあまり経験したことのない自然の猛威が次々と日本列島を襲ったからです。広島県で10月に大雪被害が行ってきた本市職員の情報によれば、現地は大いなる猛

落ちているようにですが、事故や人を失った悲しさを失った落胆や涙を流さない不安な気持ちや、思うと涙も湧きかきまひ九何より被災された皆様が加害に負いお正月を迎えられることを願います。  
さて、来年の平安は安です。この動物の姿を思い浮かべると少し驚くほど怖さを覚えるので、また何か猛威を感じる年になるのではないかと心配になりました。でも調べてみると、震災超過という言葉を聞き、オシロイシシの内は万病を予防する新年祈願の象徴だそうです。また、熊手は十二支の最後の年です。元禄は、理心も熊手になるのもいいと思えます。誰かが健康で安全に暮らし、それぞれの目標が達成される事と希望を込めて年にしてあげますね。

府中市は	ラグビーワールドカップ2019™の日本代表の練習地です。				
ラグビーワールドカップ2019™	開催まで 283日	東京2020オリンピック	開催まで 591日	東京2020パラリンピック	開催まで 623日

QRコード専用読み取り装置で、コードの文字情報を音声で聞くことができます。 「広報ふちゅう」は毎月1日・11日・21日に発行

# 写真部門 (組み写真部)

○一席作品紹介 . . . . . p. 3 0

○二席作品紹介 . . . . . p. 3 2

## 最優秀賞

区市町村名	足立区
広報紙名・掲載号	あだち広報 8月10日号
掲載意図	<p>水産物や青果、花きなど、生活に欠かせない品々の流通拠点「中央卸売市場」。足立区には都内で唯一、中央卸売市場が2つ存在し、鮮度の高い多種多様な品々の流通で人々の暮らしを支えている。そこで、2つの市場を「二大市場」と銘打ち特集企画を実施した。</p> <p>「二大市場」という双璧を表現したい意図から、市場に集う人物と品物を織り交ぜた、組み写真の構成を選択。撮影のため、どちらの市場にも早朝5時には現場入りし、せりの準備から、せり本番、仕入れた品物を売り捌く仲卸業者の姿まで幅広く写真に収めた。</p> <p>北足立市場側（左）のメインには眼光鋭いせり人を、足立市場側（右）には豪快にまぐろを捌く仲卸業者を、それぞれ大きく配置することで、紙面の上半分で市場内部の臨場感を強く押し出している。</p> <p>加えて、二大市場の特徴である「地域貢献・地域密着」を伝えるために、下半分では野菜教室（北足立市場）や市場グルメ（足立市場）などの写真を配置することで、二大市場が持つ別の一面を表現した。</p> <p>発行後、「市場は築地しか知らなかったのが新たな発見だった」「ぜひ二大市場に行って内部を見学したい」といった声が多数寄せられ、多くの区民に二大市場の魅力を伝える絶好の機会になったと考えている。</p>
審査委員コメント	<p>●足立の二大市場、威勢の良い声が聞こえてきそうです。元写真はそれぞれ綺麗に撮影されています。紙面上では、左右に二大市場を分け、核となるメインの写真を中心にそれぞれの特徴を伝える写真を配置してバランスを取っています。足立広報の写真は安定感がありますね。これからも良い広報誌を期待しています。</p>



# 一席

区市町村名	八王子市
広報紙名・掲載号	広報はちおうじ 9月1日号
掲載意図	<p>関東屈指の山車祭り「八王子まつり」。まちには神輿を担ぐ祭人のかけ声や、豪華絢爛な山車のお囃子が響く。本ページでは、昼と夜の異なるシーンで輝く祭人たちの姿に着目した。</p> <p>祭りの締めくくりに山車が集結する年番送りをはじめ、山車を曳く子どもたちや神輿を担ぐ祭人などを、明暗が際立つように配置。祭人の熱気や息遣いが伝わる紙面をめざした。</p>
審査委員コメント	<p>●毎年恒例の「八王子まつり」ですね。写真はそれぞれ綺麗に撮影されています。年々腕を上げていますね。紙面上のレイアウトにも安定感があり、祭りの雰囲気伝わってきます。とても良い構成になっていますが、もう少し躍動感のある写真を組み込むと更に良い紙面になると思います。シャッタースピードなどを工夫した撮影で、躍動感を意図した撮影にも挑戦してみてください。</p>



# 夏祭り彩る夏祭

8月3・4・5日に行われた加東地区の山車まつり「八王子まつり」。夏空の下、甲州街団には山車を曳く祭人のかけ声が響き、祈れた73万人の観衆を盛り上げました。活気あふれる祭りは、来年もまた八王子の夏を彩ります。

## 二席

区市町村名	江東区
広報紙名・掲載号	「こうとう区報」11月11日号
掲載意図	<p>江東区は臨海部をはじめ、多くの夜景スポットがあり、区の魅力のひとつとなっていますが、区民の皆さんに浸透していないのが現状です。</p> <p>自分が住んでいる自治体の意外な魅力を少しでも知ってもらい、「江東区」に住んでいることを誇れる、「江東区」を好きになってほしいとの気持ちで作成しました。</p> <p>また、今号で取り上げた夜景はごく一部であり、人の数だけ、心に響く夜景があると思います。サブタイトルを「あなたのお気に入りを探してみませんか」と自発的にすることで、区内の夜景を意識してもらおうとともに、いつも使っている通勤・通学ルートから見える身近な夜景にも意識を向けてもらい、自身が住んでいる自治体に多方面から少しでも愛着を持ってもらいたいとの思いです。</p>
審査委員コメント	<p>●綺麗な夜景ですね。これだけ多くの夜景スポットがあるのは江東区以外では数少ないと思います。写真もそれぞれ非常に綺麗に撮影されています。その場の空気感も伝わってきますね。この特集を見た写真ファンの区民が、様々な夜景作品を生み出し、SNS等で発信してくれると思います。紙面上ですが、写真の上のテキストは最小限にしたいですね。</p>



## 江東夜景スポット

### この冬、あなたのお気に入りの探してみませんか

江東区はダイナミックな夜景がパノラマ状に楽しめる臨海部をはじめ、夜に浮かび上がる幻想的な橋など多くの夜景スポットがあります。身近な場所や、あまり人に知られていない場所にもあなたの心に響く夜景があるかもしれません。冬の澄みきった空気の中、あなたのお気に入りの夜景を探してみませんか。



①豊洲市場屋上緑化広場(豊洲6)から



②夢の大橋(青海1~有明3)



③東京ゲートブリッジ(若洲3)



#### 臨海エリア



①永代公園(永代1)付近から

#### 深川エリア



②隅田川テラス(佐賀2)



①ふれあい橋(亀戸9)

#### 城東エリア



②小名木川クローバー橋(大島1~扇橋3)

#### 今号の 主な内容

[2面]平成31年度 江東きっずクラブB登録利用・学業クラブ入会児童を募集  
 [3面]11月11日は「介護の日」、第3回区議会定例会終わる [7面]区立小中学校事務職員(非常勤)募集



## 二席

区市町村名	東大和市
広報紙名・掲載号	「東やまと市報」4月15日号
掲載意図	<p>市報4月15日号では、見開きの6・7ページで、市内で撮影した桜を組み写真として掲載しました。</p> <p>市報はそれまで2色刷りで印刷をしていましたが、同号からリニューアルし、全ページカラー刷りとしました。リニューアル記念号の発行にあたり、カラー化の良さを多くの市民の方に知っていただくには、写真を掲載することが最も効果的であると考え、季節感のある桜をテーマとしました。</p> <p>紙面の中には、桜を眺める親子連れや子どもの写真も組み込み、タイトルを「桜満開 笑顔も満開」としています。</p> <p>桜を眺める方は、皆さん笑顔です。その笑顔の写真を掲載することで、東大和の明るい春を表現しました。組み写真の最後には、地面いっぱいになる桜の花びらを掲載し、短い春も表現しています。</p> <p>紙面では、余白のスペースを多めに確保し、見やすくなるように努めました。写真の撮影場所に関する説明も掲載しましたので、東大和の桜の名所を多くの市民の方にお知らせできたのではないのでしょうか。</p>
審査委員コメント	<p>●桜の季節は笑顔も満開ですね。元写真もそれぞれ桜、市民の笑顔が綺麗に撮影されています。紙面上では、画角、撮影位置の高さを変化させて、リズム感のあるレイアウトになっていますね。桜の花のアップがあると、もう少し「桜」感が増したと思います。この特集を見た、たくさんの市民が地元の桜で楽しんだことと思います。</p>



## 今年も咲いたピンクの花

春の足がいよいよ暖かくなると、色とりどりの桜が咲きだす。今年も、東やまと市報が桜をテーマにした特集を企画する存心だ。今年も、東やまと市報が桜をテーマにした特集を企画する存心だ。

また、その歴史は、平成17年、東やまと市報が桜をテーマにした特集を企画する存心だ。

桜の歴史は、平成17年、東やまと市報が桜をテーマにした特集を企画する存心だ。

今年の桜は、平成17年、東やまと市報が桜をテーマにした特集を企画する存心だ。

今年も、東やまと市報が桜をテーマにした特集を企画する存心だ。

今年の桜は、平成17年、東やまと市報が桜をテーマにした特集を企画する存心だ。



### 東大和と桜

東大和と桜の関わりは古く、「東大和のよもぎまき」(旧)に記される昔話をもとに、その歴史は明治中期にまでさかのぼります。

東大和の桜は、東大和のよもぎまきをテーマにした特集を企画する存心だ。

東大和の桜は、東大和のよもぎまきをテーマにした特集を企画する存心だ。

東大和の桜は、東大和のよもぎまきをテーマにした特集を企画する存心だ。

## 桜満開

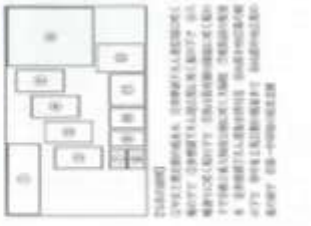


## 笑顔も満開

今年の桜満開には、市民たちの思いの込められた桜が咲きました。そして、この美しい景色をさらに美しくするために、今年も、東やまと市報が桜をテーマにした特集を企画する存心だ。

今年の桜満開には、市民たちの思いの込められた桜が咲きました。そして、この美しい景色をさらに美しくするために、今年も、東やまと市報が桜をテーマにした特集を企画する存心だ。

今年の桜満開には、市民たちの思いの込められた桜が咲きました。そして、この美しい景色をさらに美しくするために、今年も、東やまと市報が桜をテーマにした特集を企画する存心だ。



### 東やまと市報 AR(拡張現実)を導入

AR(拡張現実)を導入し、東やまと市報の歴史や文化を、スマートフォンで手軽に楽しめます。AR(拡張現実)を導入し、東やまと市報の歴史や文化を、スマートフォンで手軽に楽しめます。

AR(拡張現実)を導入し、東やまと市報の歴史や文化を、スマートフォンで手軽に楽しめます。AR(拡張現実)を導入し、東やまと市報の歴史や文化を、スマートフォンで手軽に楽しめます。

AR(拡張現実)を導入し、東やまと市報の歴史や文化を、スマートフォンで手軽に楽しめます。AR(拡張現実)を導入し、東やまと市報の歴史や文化を、スマートフォンで手軽に楽しめます。

### AR(拡張現実)を導入

AR(拡張現実)を導入し、東やまと市報の歴史や文化を、スマートフォンで手軽に楽しめます。AR(拡張現実)を導入し、東やまと市報の歴史や文化を、スマートフォンで手軽に楽しめます。

AR(拡張現実)を導入し、東やまと市報の歴史や文化を、スマートフォンで手軽に楽しめます。AR(拡張現実)を導入し、東やまと市報の歴史や文化を、スマートフォンで手軽に楽しめます。

AR(拡張現実)を導入し、東やまと市報の歴史や文化を、スマートフォンで手軽に楽しめます。AR(拡張現実)を導入し、東やまと市報の歴史や文化を、スマートフォンで手軽に楽しめます。

### AR(拡張現実)を導入

AR(拡張現実)を導入し、東やまと市報の歴史や文化を、スマートフォンで手軽に楽しめます。AR(拡張現実)を導入し、東やまと市報の歴史や文化を、スマートフォンで手軽に楽しめます。

AR(拡張現実)を導入し、東やまと市報の歴史や文化を、スマートフォンで手軽に楽しめます。AR(拡張現実)を導入し、東やまと市報の歴史や文化を、スマートフォンで手軽に楽しめます。

AR(拡張現実)を導入し、東やまと市報の歴史や文化を、スマートフォンで手軽に楽しめます。AR(拡張現実)を導入し、東やまと市報の歴史や文化を、スマートフォンで手軽に楽しめます。

### 東やまと市報 AR(拡張現実)を導入

AR(拡張現実)を導入し、東やまと市報の歴史や文化を、スマートフォンで手軽に楽しめます。AR(拡張現実)を導入し、東やまと市報の歴史や文化を、スマートフォンで手軽に楽しめます。

AR(拡張現実)を導入し、東やまと市報の歴史や文化を、スマートフォンで手軽に楽しめます。AR(拡張現実)を導入し、東やまと市報の歴史や文化を、スマートフォンで手軽に楽しめます。

AR(拡張現実)を導入し、東やまと市報の歴史や文化を、スマートフォンで手軽に楽しめます。AR(拡張現実)を導入し、東やまと市報の歴史や文化を、スマートフォンで手軽に楽しめます。

### 東やまと市報 AR(拡張現実)を導入

AR(拡張現実)を導入し、東やまと市報の歴史や文化を、スマートフォンで手軽に楽しめます。AR(拡張現実)を導入し、東やまと市報の歴史や文化を、スマートフォンで手軽に楽しめます。

AR(拡張現実)を導入し、東やまと市報の歴史や文化を、スマートフォンで手軽に楽しめます。AR(拡張現実)を導入し、東やまと市報の歴史や文化を、スマートフォンで手軽に楽しめます。

AR(拡張現実)を導入し、東やまと市報の歴史や文化を、スマートフォンで手軽に楽しめます。AR(拡張現実)を導入し、東やまと市報の歴史や文化を、スマートフォンで手軽に楽しめます。

## 奨励賞

区市町村名	羽村市
広報紙名・掲載号	「広報はむら」5月15日号
掲載意図	<p>羽村市では毎年4月、2日間に渡って「春祭り」が行われます。市内にある6つの神社の山車が各町内を練り歩き、お囃子の音が街中に響き渡ります。小さな子どもから高齢者まで、老若男女が幅広く参加する春祭りは、地域の温かさや、絆の大切さを感じさせてくれます。</p> <p>今回は、6つの神社のひとつである五ノ神社の祭りを特集し、その中で組み写真を掲載しました。</p> <p>五ノ神社では、およそ2年の歳月をかけて山車を新造し、平成30年の春祭りで初めてお披露目しました。特集記事は山車の新造取材したものであったため、組み写真も山車にフォーカスを当てたものを多く掲載しました。</p> <p>ページをめくった瞬間に読者にインパクトを与えるため、1P全面に撮影用にライトアップして撮影した山車単体の写真を掲載しました。山車の迫力を表現するため広角レンズを使用しました。</p> <p>2Pでは市民の「笑顔」と山車がともに写っている写真を多く掲載し、山車の新造を心から喜ぶ地域の人々の気持ちが読者に伝わるよう努めました。</p>
審査委員コメント	<p>●新しい「山車」のお披露目。元写真では、山車、市民の笑顔が綺麗に撮影されています。紙面上では、ライトアップされた山車の写真をメインにして、市民の笑顔が溢れています。バランスも良く配置されていますが、「山車」感が薄く感じます。1Pの山車の写真をもう少しあおり気味に撮影して迫力を出し、新しい山車を市民が囲むような写真を増やすことで「山車」を主役とした構成になると思います。</p>

百年先へ豊く

# 五ノ神の山車

生まれ変わった

この春、五ノ神社の山中の御祭が今年生まれ変わった。全体に施された精巧かつ  
贅麗な装飾が、周囲に漂い舞い、その姿は気負さなき感動じられる。五ノ神の  
人々の思いが結集して誕生した新たな山車は百年先まで受け継がれていく。

広島はむら 2015.11



五ノ神の人々は、この山車の  
復活は長年の願いだった。先  
代の山車は平成10年に壊れ、あきら  
まげ山車を制作したものの、そ  
れは形はともかくとて姿も様子が可  
憐なものでした。

山車制作の経験が豊富なのは平  
塚家5代目のごとくだ。五ノ神委  
員の上野真司氏も長年資金を出さ  
うことで名匠の山車作りが実現し  
、平成20年5月、平成21年秋  
日の夜行をめぐり五ノ神の新しい山  
車が完成した。

新しい山車を始めるにあたり、先  
代の山車制作の経験が豊富な  
平塚家5代目の人々の思いだ。  
本誌は、その思いを伝えること  
はできた。今年の山車制作の時  
に、神の人々にとりて受け継がれ  
ていくことだ。

山車制作委員の田中三喜氏は  
「素晴らしい職人が残っていて、美  
な山車を造ることができ、また後  
からの代に引き継ぎ、いよいよ大  
目玉としよう」と笑顔で話した。

広島はむら 2015.1.15

## 奨励賞

区市町村名	中央区
広報紙名・掲載号	「区のお知らせ 中央」11月1日号
掲載意図	<p>区内在住の60歳以上の方々に組織される「中央区シルバー人材センター」の会員募集記事として1面を使い大々的に掲載した。1面の記事であることから複数の写真を使用することを鑑みて、会員の男女比や表情、写真のアングルを意識して撮影を行った。また、被写体である会員のいきいきとした明るい表情や真剣に作業を行っている様子が読者に伝わるような写真を選定し、どのような作業を行っているのか写真を見ただけで確実に伝わるか、という視点にも考慮した。</p> <p>撮影にあたっては、会員が日頃から活動を行っている公園や児童館などに赴き、1面に写真を掲載することへの承諾を得た上で撮影を行った。なお、会員の明るい表情などを逃さないためにも連写を活用して多くの写真を撮影した。</p>
審査委員コメント	<p>近年、「シルバー人材センター」は地域に必須な組織になっていますね。元写真は綺麗に撮影されているのですが、全ての写真でフォーカスが画面の中心に合っています。人を主体とした撮影ですので、人物にフォーカスを合わせるようにして下さい。紙面上では、「シルバー人材センター」がどのような仕事をしているのか、分かりやすく配置されていますね。たくさんの応募があったと思います。</p>

11/1

# 中央

区のおしらせ

http://www.city.chuo.lg.jp/ スマートフォンサイト http://www.city.chuo.lg.jp/smph/



## 「シルバー人材センター」で一緒に働きませんか

**シルバー人材センターとは**  
高齢者が地域で働くことを通じて、健康で生きがいのある生活を送り、活力ある地域社会づくりに貢献することを目指す会員組織です。

**入会資格**  
・60歳以上の健康な区民で、働くことと社会参加活動に意欲がある方  
・基本理念「自主・自立、共働・共助」を理解し、ルールを守って、助け合いながら仲良く働く方

**会員の働き方**  
・仕事は依頼主(区、会社、家庭など)からセンターが引き受けて契約します。  
・センターは仕事の内容によって、会員に選んだ仕事を割り振ります。  
・働いた会員には、センターから実績に応じた「配分金」が支払われます。

**仕事の内容**  
高齢者の安全に配慮したもので、1週当たり20時間以内の臨時・短期的または軽易な作業です。  
自転車整理、パソコン入力、家事手伝い、育児サービス、ビル清掃、施設受け付け、宛名書き、列入、チラシ配布、ポスター張り、障子張り、草取り、簡単な大工仕事など、多岐多様です。

**現在急募中の仕事**  
定年延長や継続雇用制度の実施などにより、男性の入会者が減少傾向に転じている影響で、特に自転車整理の就業会員が不足しています。また男女問わず、ビル清掃や、一般家庭の家事援助のご依頼も大変多く、主に短い時間の就業ですので、趣味や地域活動の合間に働くには、とてもお勧めです。

**入会説明会**  
日時 毎月13日 午前10時から2時間程度  
◎土・日曜日、祝日の場合は直前の平日です。  
◎当日、直葬会場へお越しください。途中入場はできません。  
◎11月は13日(火)です。  
◎会場 センター2階会議室  
持ち物 健康保険証や運転免許証など住所・年齢が確認できるもの、印鑑、筆記用具  
◎当日入会受け付け後には、会員証などに使用する顔写真を撮影します。  
◎仕事のご紹介は、約1週間後に行う研修を受け、年度会費1,000円をお支払い後になります。

**会社・商店・ご家庭の皆さん**  
その仕事お任せください  
センターでは、区・家庭・商店・会社・各種団体などから多種多様な仕事をお引き受けています(危険な仕事などお受けできない内容もあります)。  
会員の仕事ぶりは「前面目」で丁寧「安心して任せられる」など、大変好評です。  
高齢者の豊富な知識・経験はきっと皆さんの役に立てると思います。  
◎詳しくはセンターのホームページをご覧ください。  
◎中央区八丁堀3-17-9京華スクエア1階  
中央区シルバー人材センター ☎(3551)2700  
http://www.chuo-sc.or.jp/

「教育の充実」が実現する計画です。  
教育は、崇高なものはありませぬ。人間がいま直面しているさまざまな問題は教育を通してのみ克服・解決できるのです。今後とも「教育の充実」に努めたいと考えています。

次の時代を担う子どもたちが元気にいっばい心豊かに成長している姿を拝見することは、どの区民として誇りに思うことはありません。特に今年には5校の小・中学校で周年行事が開催されますので、なおさらです。  
1番手は10月13日の徳中学校の開校30周年です。このあと11月10日に奉天小学校の140周年、幼稚園65周年、11月17日の徳島小学校130周年、12月1日の南海中学校50周年、12月8日の明石小学校110周年、幼稚園10周年と続きます。どの周年行事もそれぞれの特色があり、それを式典やアトラクションで拝見するの大きな喜びです。個中では月島大鼓を威勢よく演奏してまいりました。金寶バンドの演奏を予定。個島小では音楽、踊り中では吹奏楽部の演奏を、明石小では児童による合唱を披露する計画です。



# 映像部門

- 総評 . . . . . p. 3 7
- 最優秀作品紹介 . . . . . p. 3 9
- 一席作品紹介 . . . . . p. 4 1
- 二席作品紹介 . . . . . p. 4 3
- 奨励賞作品紹介 . . . . . p. 4 7



## <映像部門 総評>

### ●阿部委員

「広」く「報じる」と書く「広報」、「報」と言われるからには、いかに広く、観てる人に「ほう」と興味関心を持たせられるか、が重要です、なんてことを昨年、審査総評で書いたのですが、今年作品は、明らかに昨年よりレベルアップしており、いろいろな作品の様々な手法で、何度も何度も「ほう」と引き込まれました。

羽村市の、自主制作とは思えない、全く無駄なく、そのくせグイグイ引き込まれる演出手法。

江戸川区のテーマに真摯に向き合い、しっかり構成し、難しい問題を、区民にちゃんと自分ゴト化させる企画力。

大前さんという義足ダンサーと三之助さんという、プロフェッショナルをしっかりと品川区の魅力へと変換させた品川区。

PRの常識を市民とともに広げようと、学生のアイデアと市の魅力を掛け算するという、チャレンジ精神に満ちていた小金井市。

生活する子供たちの生き活きとした表情を通して、宇佐美学園も、運営している中央区自身も、とても素敵に思えました。

誰もが動画を発信でき、評価される時代になり、いろんな自治体でも、この「誰かに何かを伝える」動画づくりが不可欠になっています。伝えようとしたその動画には、どんな形であれ、送り手の気持ちが表れ、暮らす人と区市町村の間に、新しい関係が生まれます。けして上手じゃなくても一生懸命つくってある動画には、それなりの熱意や愛情が伝わってきますし、逆に、機械的に繋いだ映像や、棒読みのナレーションからは、その手抜き感が伝わってしまうこともあります。

人々に、わかりやすく、興味深く、魅力的に、飽きることなく、伝えること。今年も、そのことに工夫に工夫を凝らしたたくさんの動画を見ることで、東京中の、たくさんの市区町村と、そこに暮らす人々との素敵な関係が伝わってきました。

審査をするたびに、動画をつくることは、とても大変だとは思いますが、これからも、東京と都民の間にできる一つでも多くの素敵な関係のために、動画に工夫に工夫を重ね、発信して行ってほしいと思います。

## <映像部門 総評>

### ●高橋委員

30年度の各番組・作品を拝見しました。

今年の番組は一言でいうならば更にレベルアップした「粒ぞろい」です。採点についても同様にあまり高低差の無い拮抗した評価になりました。

私の感想としても、数年前からハード面の進歩もあり、上質な映像と手際の良い編集、明快なりポートとナレーションでつくられた番組が殆どで、ネット配信、CA-TV放送、更には所謂地上デジタル放送にも十分に耐えられるものになってきていると思いました。

しかし、立場上敢えて言わせてもらえば、見ていて何か足りないファクターも感じました。それは、広報・情報番組としては十分及第点であっても、情報を盛り込めば盛り込むほど、その情報から疎外される人たちも増えてくるという負の側面を感じたからです。せっかくのお役立ちの情報や区や市の歴史情報、施設情報も、見る側に関心をよばなければ「私には関係無い・・・」「自分には得にならない・・・」と思って横を向いてしまう人も出てくるでしょう。番組の持つチカラというものは、そんな「情報」に興味を持たない人たちを、そこからどう番組に惹きつけることができるか、ということだと思えます。情報の情をとって「人情」を使う演出もあるでしょうし、地域の背景を活かしてドラマタイズすることで取りあえず気を惹く手もあります。しかし、あくまでそれは見せ方のアイデアであって、肝心なのは中身（素材）の「情報」にどう下味をつけ、料理して盛り付け、食べやすく食欲の湧くような広報番組にしていくか、ということだと思えます。今回「粒ぞろい」といったのは、情報という素材の料理の仕方が良くも悪くも皆どこか体裁と手法がイマ風で似ていて、情報をそのままナマに近い形で番組に出しているのでは、と感じたからです。

「粒ぞろい」などと言いながら逆の意味で少し皮肉っぽくなってしまいましたが、物足りなさを感じたのはそのこのポイントです。情報なんだから手を加えずにそのまま「刺身」で出せばいい、という考え方もあるでしょう。しかし、誰に向けて、何のために番組を作っているのでしょうか？ 区民や市民に必要と思われる情報を伝えて、生活の役に立ててもらったり、災害を防止したり、健康を維持したりしてもらいたいからではないですか？ であれば、とにかく、より多くの人に見てもらわなければならないのです。ですからナマにちかい情報を出して、見たい人だけが見ればそれでよし、とするのは如何なものかと思うのです。情報番組であればこそ高度な演出が必要だ、というのが私の自論です。

今回、私が高評価を付けたのは、羽村市の春祭りの新山車を手作りする職人たちを追う番組と品川区の障害をもつプロダンサーの紹介番組で、実に情報と演出がうまくかみ合っていて、知らず知らずのうちに番組の中に導かれていきました。そんな演出臭さを感じさせない、上質な演出の情報番組をこれからも期待したいと思います。

## 最優秀（全国広報コンクール推薦）

区市町村名	羽村市
題名	テレビはむら春祭り特別番組 五ノ神の山車 前編～百年先を造る～
時間・制作方法	30分 自主制作
主な内容	<p>羽村市では毎週30分の広報番組「テレビはむら」を制作し、市内の様々な話題を放送しています。今回の映像は、その中で「春祭り特別番組」として放送したドキュメンタリー番組です。</p> <p>羽村市では毎年4月、2日間に渡って「春祭り」が行われます。市内にある6つの神社の山車が各町内を練り歩き、お囃子の音が街中に響き渡ります。</p> <p>6つの神社のひとつである五ノ神社では、この春、百年に一度と言われる山車の新造が行われました。番組では、およそ2年間にわたって行われた山車造りに密着し、職人の思いや山車の新造を喜ぶ市民の姿を2週にわたって放送しました。</p>
制作意図	<p>「百年に一度」と言われる壮大なプロジェクトを「あますところなく記録し後世に残すこと」を目指して番組作りを行いました。そのため、山車造りを担った八王子や秩父の山車職人を2年間数十回にわたり取材し、滅多に見ることのできない貴重な映像を撮影しました。</p> <p>伝統を受け継ぐ職人の高い技術や、インタビューを通じて山車造りにかける熱い思いを視聴者に伝えることで、市民の皆さんに山車の価値を知ってもらい、百年先まで語り継いでほしいという思いで制作しました。</p>
審査委員コメント	<p>●中身の山車の作品は素晴らしいです。演出もいろいろなことをそぎ落としているものの、地味になることなく、思わず見入ってしまう上がりになっています。ナレーションも少ないのですが映像がこの上なく美しく、ついつい見入ってしまいます。最初と最後のMCは作品としては、なくてもよかったかもしれませんが「山車をつくりあげる」という芸術作品をみせてもらった感じでしょうか。カメラワークも演出も相当レベルが高いので、同じ要素で、もここまで見せられるものに仕上げるのは、むづかしいでしょう。いいものを見せてもらい、ありがたい限りです。（阿部）</p> <p>●羽村の春祭り、その中の五ノ神神社では100年に一度の新山車を作るという大プロジェクトがスタートしていた。この番組はその想像を絶する細かく慎重な作業を二年間に渡って追ったドキュメンタリーである。いろいろ長所があるが、とにかくカメラがワークがキレがあって良い、つくる職人たちの顔が良い、ナレーションもよく練られているし音楽のセンスも良い、と三拍子揃って良い！そして最後には普遍的な「人間ドキュメント」に昇華し到達した点を何よりも特筆すべきだと思った。後編も見たくなる優秀作。（高橋）</p>



# 一席

区市町村名	品川区
題名	三之助の笑顔いっぱいとおきの品川 可能性は無限大！義足のプロダンサー 大前光市
時間・制作方法	10分 委託制作
主な内容	<p>嘶家の柳家三之助（品川区在住）が、区内で活躍する人、団体を紹介し、みなさんの笑顔をお届けする10分番組。</p> <p>今回は、リオパラリンピックの閉会式でダンスを披露し世界的に注目を集めた、区内在住の義足のプロダンサー・大前光市（おおまえこういち）さんにスポットを当て、大前さんのダンスにかけられる想いや障害に対する考え方を掘り下げます。</p>
制作意図	<p>大前さんは、東京2020大会に向け区応援競技のPRや大会に向けたさらなる機運の醸成を図ることを目的とした「しながわ2020スポーツ大使」に任命されています。大前さんをテーマにした番組を制作・放映することで東京2020大会への区民の気持ちを一層盛り上げていきたい意図で制作しました。</p>
審査委員コメント	<p>●一気に引き込まれ見入ってしまいました。導入できたいを煽るのも、とても素晴らしいですし、義足のダンサーの単なる紹介にとどまらず、人の生き方や価値観の話にまでなっていて、とても心に残りました。三之助さんのプロの進行ぶりも、見やすくわかりやすくしてくれる大切な要素。品川区の区民へのサービスがとても羨ましいくらいです。あえて言えばもう少し大前さんの活動やプロフィールをもうちょっと掘り下げると立派なドキュメンタリー作品になるとおもいますが10分が規定なんですよ、もう2～3分長くてもいい気がしました。（阿部）</p> <p>●10分という短い時間ながら、インパクトの強い濃密な時間を味わった。「しながわ2020スポーツ大使」であり、義足のプロダンサーの大前光市さん。冒頭のダンスシーンが光彩の中で非常に美しい。大前さんはもうある種有名人で、テレビ番組出演多数、リオの閉会式での踊りや紅白歌合戦での平井堅とのパフォーマンスを思い出す。聞き手は嘶家の柳家三之助さん。実に息の合ったインタビューで、大前さんの「障害に対する考え方」を見事なまでに自然にさりげなく引き出している。秀作です。（高橋）</p>



前と同じように踊れなくなってしまったことを  
逆手にとるといふか



日本の方は 障害=かわいそう  
という見方が 強いかなと思います

## 二席

区市町村名	小金井市
題名	小金井市市制施行60周年記念プロモーションビデオ 自然・環境編「ムジナ坂～わたしとはけとみず～」
時間・制作方法	6分 委託制作
主な内容	<p>小金井市の特徴的な地形である「はけ」や坂、市内を流れる野川を軸に、婚約者を失い心に傷を負った女性が、市職員や少年との交流を通じて立ち直っていく姿を映していく物語です。</p>
制作意図	<p>市の良いところをPRすることにより地域を活性化すること、歴史や文化を紹介することにより、市民の生涯学習に寄与することを目的として「歴史・文化編」「自然・環境編」「賑わい・産業編」「ダイジェスト版」の4本のプロモーションビデオを制作しました。制作にあたっては、若者の自由な発想で作成してもらいたいこと、また、逆に小金井市内に住んでいない人に新たに魅力を発見してもらいたいと考え、市内にあり、動画作成に必要な設備と指導者を有している東京工学院専門学校放送芸術科の学生に委託しました。</p>
審査委員コメント	<p>●試みとして、素晴らしいです。市のPRの手法として制作の体制も含めてとても興味ふかいです。市を舞台に市の様々な場所を物語に絡めながらも、しっかり短編映画のような出来に仕上がってしまいました。よくヒット映画の聖地が話題になりますが上手に計算すれば、先に聖地ありきの映画も作れることになりましたね。動画を起点にさまざまな形で、市へ訪れる人の導線が作れそうですね。まだまだ上がりについては余地があるは確かですが、こういったPRの可能性をさぐるチャレンジ精神に、市町村のPRの面白さを再認識させてもらいました。（阿部）</p> <p>●制作の東京工学院の学生たちの意欲は買いたい！しかし、超力作というわけではなく、肩の力が抜けていて、等身大の表現が何とも瑞々しくて好感をもった。4部作+αの構成は全体的にはPVというか、小金井に舞台を借りた手作り感のあるタイムスリップドラマというつくりで、人情物の要素もあり楽しい。冒頭で彼氏がクルマで運転中に事故死する場面だけは若干映像的にも無理があったが、あとは出演者の演技も結構自然で、違和感なく見ることができた。「ほどよく都会、ほどよく田舎」という小金井の特徴をよく表わしたキャッチコピーも頭に残った。（高橋）</p>





## 二席

区市町村名	江戸川区
題名	ともに未来へ歩む ～児童相談所と里親制度～
時間・制作 方法	22分 委託制作
主な内容	<p>「オズの魔法使い」「小公女」「赤毛のアン」「足長おじさん」「トム・ソーヤの冒険」言わずと知れた海外児童文学の傑作である。</p> <p>しかし、これら作品の共通点をすぐ指摘できる人は少ないだろう。それは、主人公が「里子」や「養子」であるということ。</p> <p>日本にも生みの親の下を離れ暮らす子どもが多くいるが、諸外国のように里親への広範な理解はなく、施設で暮らしている例が過半である。</p> <p>そうした子がより健やかに成長するには里親と暮らすことが望ましいとされるが、その数は十分ではない。そもそも里親の制度はどのような仕組みなのか、里親、そして里子はどのように感じているのか。</p> <p>当事者のお話を通し、血縁に関わらず強い絆で結ばれうる家族とその幸せのかたちを紐解き、里親の取り組みに理解を深めていく。</p>
制作意図	<p>子どもへの虐待について対応を担うのは児童相談所である。</p> <p>平成28年の法改正で23区も児童相談所を開設できることになり、江戸川区はその第一陣として平成32年度開設に向け準備を進めている。</p> <p>そして、組織の整備に加え大切とされているのが、共に子どもを育む十分な数の里親の確保である。しかし、元々里親そのものが少なく、区の経験や周知不足もあり、里親が足りていない現状がある。</p> <p>そこで、里親希望者の発掘、区立児童相談所準備のPR、そして里親子の思いを伝え、その考えや立場に対する理解を促すことを目的として番組を制作した。構成・編集では、辛いことも含め率直に取材にご協力いただいた当事者の方に感謝をしつつ、里親子として暮らすことが「ありふれたこと」となるよう願いこめて作業を行った。</p>
審査委員コ メント	<p>●里親というむづかしい制度をしっかりとみている人に考えさせられる構成になっています。あらゆる人の立場から、里親という制度を語らせることで、どんな人にも考えさせられる内容になっています。導入の図書館といい、ラストに里子の若者が「将来里親になりたい」と語るクライマックスまで、とても計算されて作られています。江戸川区さんは、昨年といい、PRの作り方が非常にきめ細かくできていて感心させられます。あえて言うのであれば、トーンが少し地味なところはあるので、少しメジャーに見えたり聞こえたりする演出があってもいいかもしれません。（阿部）</p> <p>●現在でも日本では血の繋がった親子が一番だ、という考え方が一般的であるという。江戸時代では生みの親の下を離れて暮らすのもごく普通のことだったし、この番組の冒頭部で語られているように、諸外国では養子、里子、里親が「ありふれた」光景だという。一方、平成に入って目立つようになった児童虐待から児童を保護する目的で法改正も行われ、区単位でも児童相談所を開設できることになり、江戸川区はその第一陣として再来年開設予定で名乗りを上げた。血縁は無いが、しかし強い絆で結ばれた家族を描く事で、非常に重たい社会的テーマに挑んだ番組の制作姿勢は良い。（高橋）</p>



## 奨励賞

区市町村名	中央区
題名	豊かな自然の中で・・・中央区立宇佐美学園
時間・制作方法	15分 委託制作
主な内容	開園80周年記念式典の様子を皮切りに、子どもたちに密着取材して見えた特色ある学習風景、生活の様子を紹介。
制作意図	東京23区で唯一の健康学園であり、開園80周年の節目を迎えた歴史ある中央区立宇佐美学園について、これまでの歩みや学園の特色、その良さを、子どもたちの学園生活などを通じて広く区民に紹介する。
審査委員コメント	<p>●とても丁寧に、わかりやすくつくられていると思いました。宇佐美学園の環境や施設も、そこで生活する生徒たちもとても素敵なものに見え、こういう施設を運営している中央区も素敵に思えました。ただ、PRの企画という面から見ると、施設の概要を丁寧に紹介しているだけなので、惜しい気もしました。この施設を作ろうと思った人々を軸にしたり、この施設によって成長した一人の生徒を軸に見せていくとか、もっとこのファクトを印象的に見せる企画があればより魅力的に感じられると思いました。（阿部）</p> <p>●東京23区で唯一の全寮制健康学園が神奈川県の上野毛にある。昨年開園80周年を迎えたこの学園では、海に近い自然の中の全寮生活を通じたユニークなカリキュラムで、健康を損ねた子供たちが元気を取り戻し、健康になって復学していくのを目標としている。朝6時起床、乾布摩擦から始まるスケジュールは、全て三度の食事も含めて子供たちの手によって自主運営され、子供たち自身のペースが大事にされている。みかん狩り等の課外授業も多く、海と山の自然の中で仲間たちと六年間過ごすことにより、都会では得られない何か復元力のようなチカラと、子供たちが持っている本来の資質を引き出し、育てていくのがよく分かる。（高橋）</p>

昭和30年 宇佐美学園  
(静岡県立中央区立宇佐美学園)



**中央区立宇佐美学園** 所在地:静岡県伊東市宇佐美545

ぜんそく・肥満・虚弱などの児童が、恵まれた自然環境の中で生活し、健康の回復・増進に努めながら学校教育を受けられる全寮制の学校

運動・授業・自然体験  
学園での児童たちの一日



**“自分のことは自分でする”** が学園の基本

運動・授業・自然体験  
学園での児童たちの一日



実感した効果は?

10kg痩せた!